平成二十六年度　第百十四回

京都大学書道部

冬棟展

日時　平成二十六年　十二月二十日・二十一日

十時～十七時（二十一日は受付十六時まで）

会場　建仁寺　西来院・禅居庵

―巻頭に寄せて―

本日はお忙しい中、第 114 回京都大学書道部冬樟展へお越しいただき誠にありがとうございます。

12 月も下旬、身に凍みる木枯らしに 1 年の終わりを感じる頃となりました。昨年のみやこめっせから会場を再びこの建仁寺西来院禅居庵に移した今書展は、凍えるような寒さにも負けない、今年を締めくくるにふさわしい色とりどりの力作揃いとなりました。初出品となる 1 回生の作品から卒業制作となる上回生の作品まで、限られた制作時間の中で試行錯誤の末に完成した数々の作品に込められた部員の「熱」が、ご来場いただいた皆様の心にきっと届くことと確信しています。

今年 6 月の新幹部発足後初めての書展となる今回、様々な方面の方々からご支援・ご協力を賜りながら、幹部のみならず部員全員が一丸となって今日のこの日を迎えることができました。日ごろからご指導いただいている技術顧問の寺本蒼玄先生や顧問の阿辻哲次先生をはじめ関係者の皆様方には、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

2 会場にわたり数にして 80 以上もの作品を展示しており、年の瀬の街を思わせる賑わいとなっております。皆様、心ゆくまで、どうぞごゆっくりご高覧ください。

平成 26 年 12 月吉日

京都大学書道部部長　宗 哲仁

「正月」と January

阿辻 哲次（京都大学大学院　人間・環境学研究科　教授）

まもなく新しい年がやってくる。

かつての小中学校には、冬休みに「書き初め」の宿題があった。私などいつも新学期がはじまるぎりぎりの時に「初日の出」とか「希望」などと適当に書いて提出したものだが、いまでも小中学校では書き初めという課題が出されているのだろうか。

日本の正月には、書き初めとか初詣など、日常的におこなわれるあらゆる行為が気持ちをひきしめておこなわれる。この「正月」を英語でどういうのかと調べたところ、January とか New Year という表現しか出てこない。しかし January は「一月」、New Year は「新年」にすぎず、正月の訳語としてはどうもしっくりこない。「寝正月」や「正月気分」、「盆と正月」の「正月」を、「一月」や「新年」ということばで言い換えることは不可能である。私たちが気持ちをひきしめて、過ぎ去った年を反省し、できそうもない目標を建てたりするのは、やはりそれが「正しい月」だからなのだろう。

この「正」という漢字は、クラス委員選挙やアンケートの集計などで、数を五ずつ読む時にも使われる。「正」はちょうど五画で、また直線だけでできているから、こんな時には大変に便利な漢字である。しかし五画の漢字は別に「正」だけではなく、「田」や「白」「本」「左」「玉」などほかにいくつもある。それなのに集計では「正」だけを使い、それ以外の漢字を使わないのは、そこにもやはり「正」がもつ「ただしい」という意味が大きく作用しているからにちがいない。

「創作へ」応用

寺本 蒼玄（京都大学書道部　技術顧問）

前回までの話をふまえて、応用の仕方を学んでいきます。まずは楷書について考証していきましょう。

大きく分けて、力強い、穏やか、爽やか系等に分類できます。臨書作品はそれぞれの特徴を表現すればいいのですが、創作となるとどの様なイメージで表現するかにより、ベースとなる古典を決めていきます。

タイプ別に分けて見ると、

・力強い系 …（直線的）＝造像記、張猛龍碑、高貞碑。
　　（曲線的）＝顔真卿、白穏、米山。
・穏やか系 … 魏晋小楷（鐘繇）、鄭道昭、孔子廟堂碑、良寛。
・爽やか系 … 蘇孝慈墓誌銘、九成宮醴泉銘、雁塔聖教序。

以上のような古典が挙げられます。

次に行草についてですが、

・力強い系 … 蘇東坡、顔真卿、白穏、米山、傅山、趙之謙。
・穏やか（上品）系…懐素千金帖、八大山人、何紹基、王羲之、藤原行成、小野道風、空海、良寛、劉墉。
・爽やか系 … 米芾、董其昌、懐素自叙帖、王鐸、張瑞圖、許友、陳鴻寿、呉昌碩。

等が挙げられます。

創作の場合、自分のイメージに合った古典を決めて、まず臨書をして、特徴を掴むと良い作品につながると思います。又、筆、紙、墨を選ぶことも注意して、イメージに合わせていきましょう。組み合せ方とか、他に分からない事は、先輩や先生にどんどん聞いて、これからの創作活動に生かしてください。

臨書と創作

○臨書

過去の優れた筆跡を手本として書くことです。

臨書は段階や態度によって三種類に分けられます。最初のステップは、古典の字形や用筆に迫ろうとする、「形臨」と呼ばれるものです。形をまねることは、その古典に迫る最も近い方法です。

形がある程度まねられるようになってくると、次は古典に漂う雰囲気や運筆のリズムなど、形以外の要素に重点をおいてとらえようとする「意臨」の段階に進むことができます。このような、形以外の要素をとらえようとする態度は、真筆が歴史の中で失われ、模写したものや拓本しか残っていないような古典を臨書する際に求められることがあります。

古典をよく学んだうえで、書くときはそれを見ないで書く方法を「背臨」、臨書を重ねた後、臨書から学び取った古典の特徴や表現方法などを生かして、その古典とは別の字句を書くことを「倣書」といいます。この態度は創作につながるステップとなります。

書のあらゆる作品は、このような過去の作品から学ぶことを基盤としています。書道における基本と呼べるものが、臨書なのです。

○創作

自らの創意工夫による書の表現をいいます。

自分が伝えたいこと、表現したいことを明確にして、それに合った素材（語句や詩文）や表現方法を選び、試行錯誤しながら、自分の主張や個性が表れた作品になることを目指します。

臨書によって古典から得られる様々な表現方法を用いることで、作品に味わいや深みを出すことが出来るようになります。

○法帖

芸術作品として残された個人の書を、石や木に刻して拓本をとり、臨書や鑑賞に便利なように帖仕立てにしたものです。

今回の冬樟展では、各臨書作品の右横に臨書した箇所の法帖を掲示して、皆様にご覧いただけるようにしています。

作品鑑賞の参考に、こちらも是非ご覧ください。

書体について



『篆書』
漢字のもっとも古い形で、現在使われている漢字のもとになった字体です。秦朝に小篆として統一されたものが一般的です。均一な太さの線が特徴です。



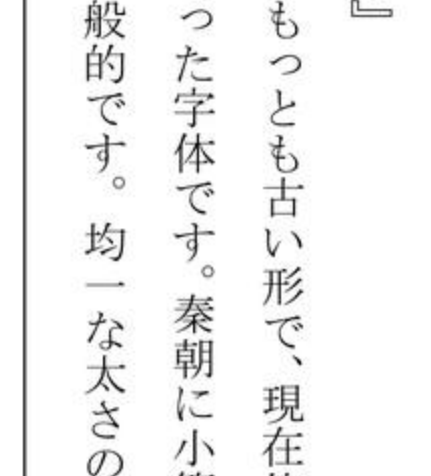
『隷書』
役人が複雑な字形だった篆書を早書きした際生まれた字体です。字形は横長で、時代が進むにつれ、線の終わりに独特な「波磔」がみられるようになります。



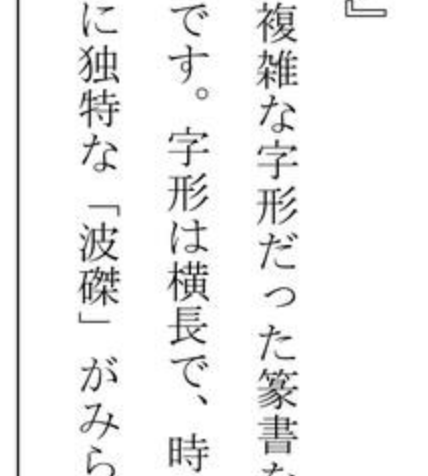
『楷書』
隷書からさらに記号化され、バランスの取れた字体です。その整った字形から、現在の漢字の基本とされています。



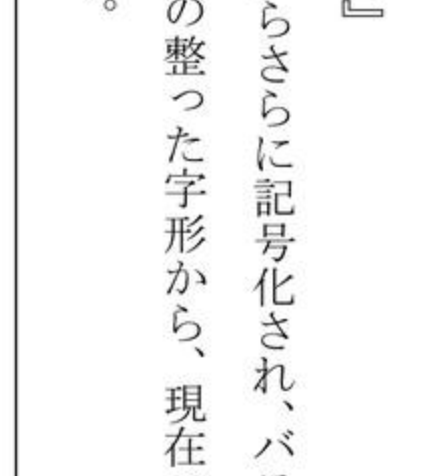
『行書』
隷書から発展した字体で、点画や線にしなやかさと変化がみられます。筆の速度や点画の流れが最も重視される書体といえます。



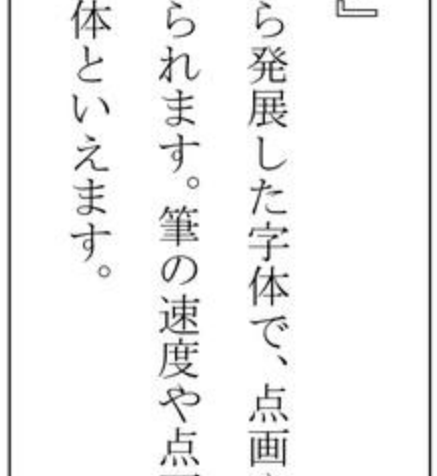
『草書』
隷書を早書きすることから発展しました。線の省略や筆順に変化があり、自由度の高い作品となります。文字から文字へと流れる「連綿」の美しさも魅力です。



『かな』
日本独特の表音文字です。草書の簡略化によって生まれました。漢字にはない流麗な筆致と同じ音を表す複数のかな、「変体仮名」による創意工夫が魅力です。



『調和体』
日本語の近代詩文や現代詩などを題材に、誰にでも親しみやすい書体で書いたものです。漢字かな交じりという日本語独自の特徴を生かした作品形態です。



『前衛』
墨の跡や空間を上手く使って書かれている書体です。視覚表面芸術として純粋に造形・線・墨色・余白などの美しさを主張している点が魅力的です。

作品一覧

技術顧問

寺本蒼玄

創作・『閑雲相與遲』p8
創作・『我事において後悔をせず』p8

一回生

笠原知生
木下有羽
清水麻友美
下坂桃代

臨書・王羲之『蘭亭序』p27
臨書・柳公権『玄秘塔碑』p28
臨書・米芾『帳季明帖』p18
臨書・伝紀貫之『寸松庵色紙』p19
創作・『わがやどの』p30

立田俊也
津金澤秀行
深谷拓未
堀場菜摘
眞嶋優一
三村祐貴子
矢野凱己
山口和樹
山崎夏野
山科直也

臨書・歐陽詢『九成宮醴泉銘』p30
臨書・董其昌『千字文』p12
創作・『中也詩 心象』p32
臨書・王羲之『集字聖教序』p33
創作・志貴皇子『冬の歌』p13
創作・『王粲詩』p21
臨書・鄧石如『贈曹儷笙四体書屏』p14
臨書・顔真卿『多宝塔碑』p23
臨書・王羲之『集字聖教序』p23
臨書・王羲之『運民帖』p35

二回生

新井一矢
荒巻拓哉

臨書・呉譲之『庾信詩』p16
臨書・王鐸『臨王献之安和帖幅』p9

上西隆太
牛山泰喜
上井晴仁
閻姝恒
角谷遊野
釜阪紘平
藏岡凌平
篠原理那
島津七明
白谷暢浩
宗哲仁
惣塚勝也
武田桃子
徳川鈴奈
疋田研一郎
古川智大
寶官紗紀
山﨑絢香
山下燎亮
吉村友希

臨書・王鐸『贈張抱一草書詩巻』p16
創作・『李白の詩 -静夜思-』p26
臨書・蘇軾『黄州寒食詩巻』p27
臨書・周彗君『望廬山瀑布』p27
臨書・傅山『五言律詩幅～杜甫「早起」～』p10
創作・『薔薇色裏紅色変』p18
創作・『返照』p11
臨書・王鐸『香山寺作』p11
臨書・傅山『行草五言古詩巻』p30
創作・『蘭亭の遊び』p19
臨書・王羲之『蘭亭序』p12
臨書・黄庭堅『松風閣詩巻』p30
臨書・趙孟頫『前後赤壁賦』p20
臨書・呉昌碩『七言絶句幅』p13
臨書・小野道風『智証大師諡号勅書』p22
臨書・傅山『五言絶句幅 - 崔國輔「魏宮詞」 -』p14
臨書・勝海舟『詩書』p23
臨書・趙孟頫『玄妙観重修三門記』p35

三回生

稲葉由花利
上村耕平
王隽斉
片野裕太
北堀雄大

創作・『岳陽晩景』p15
臨書・石川丈山『夢醒』p26
創作・『心経』p17
臨書・黄庭堅『黄州寒食詩巻』p28
創作・『冬暮』p10

小島健史
石博昭
中谷百花
中野綾香
藤田雄也
松澤祐実
宮下拓也
家倉凌

四回生

伊東優治
大泉陽輔
太田悠子
川上澄香
菊池悠里
小松聡子
柴田翔
多門千早
橋詰奈央
檜山葵

平野泰隆
藤井結稀
康村博宣
山本大翔
吉田梨沙
渡辺健介

修士一回生

大庭諒介
山口萌

修士二回生

中川和也

合作

木下有羽・立田俊也・眞嶋優一・矢野凱己・山科直也・渡辺顕
『未来』p24
小島健史・松澤祐実・稲葉由花利・中谷百花・家倉凌
『明清扇五撰』p37
二回生合作　『他己紹介』p25
四回生合作　『感謝～ありがとうは言いません～』p25
修士二回生合作『とまどいながら・・・―祭（まつり）―』p37
全体合作　『書道部Q&A』p25

臨書・『禮器碑』p18
創作・『黒羊』p36
創作・『窓越しに』p31
創作・『我』p36
臨書・智永『真草千字文』p21
臨書・文徴明『行書詩巻』p21
臨書・藤原行成『白樂天詩巻』p33
臨書・伝藤原伊房『源氏物語絵巻〈御法〉』p22
創作・『山』p33
臨書・趙之謙『急就篇』p22
創作・『花落知多少』p22
創作・『風に吹かれて飛んでゆく』p34
臨書・伝藤原行成『関戸本古今集』p26
臨書・楊峴『隷書文語四屏』p9
臨書・伝紀貫之『高野切第三種』p17
創作・『午睡』p28
臨書・最澄『久隔帖』p28
臨書・鄧石如『世慮全消四屏』p29
創作・『迸　―ほとばしる―』p18
創作・『銀河鉄道の夜』p20
臨書・王鐸『寄山中無我禪友詩』p31
創作・『よい年を願って・・・』p31
創作・『星のひとつに』p32
臨書・伝藤原行成『針切』p21
創作・『凛』p36
臨書・最澄『久隔帖』p32
模刻・『陽湖陶氏涉園所輯名人尺牘』p36
臨書・智永『真草千字文』p34
臨書・聖武天皇『雑集』p23
創作・『名前のない鳥』p24
創作・『庭中の』p35
創作・『良寛「衆星羅列禿樹花」』p15
創作・『紫藤樹』p27
創作・『刹那』p36
創作・『命―inochi―』p31

作品紹介

賛助作品

技術顧問　寺本蒼玄　先生

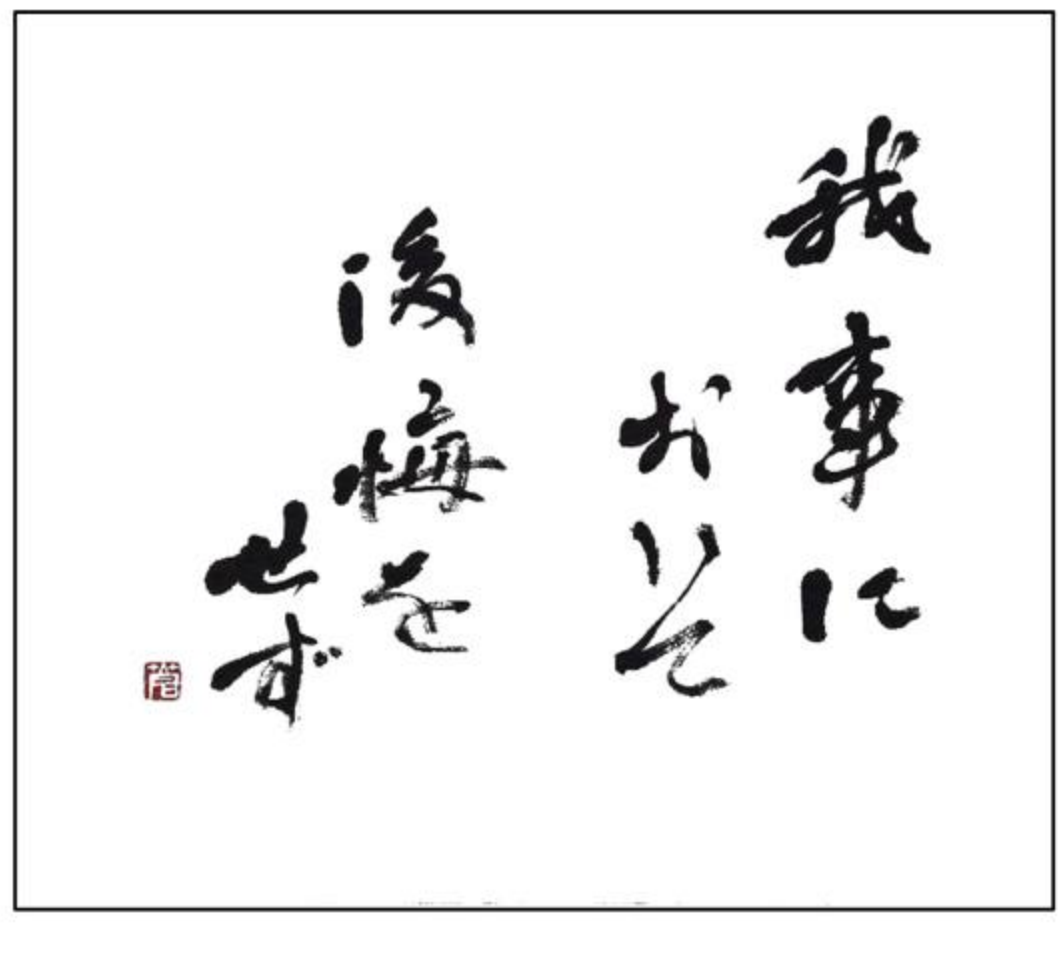
○西来院作品



『閑雲相與遲』　李頎

「閑雲（かんうん）相與（あいとも）に遅（おそ）し」：悠々として暮すゆったりとした気持を伝山の書風で豪快さも加えて仕上げました。

○禅居庵作品



『五輪書』　宮本武蔵

「我事において後悔をせず」

この言葉は私の座右の銘です。

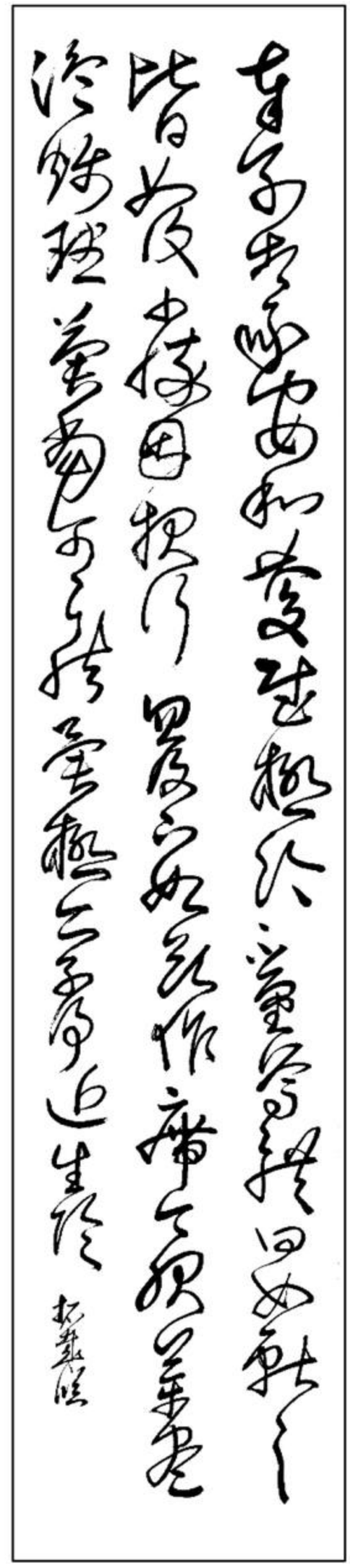
○西来院

1

荒巻拓哉　二回生
臨書　草書　王鐸『臨王献之安和帖幅』　二尺×八尺

「奉別告承安和慶慰極冷不審尊體何如献之比日如復小勝因夜行忽復下如欲作牋今服薬盡温燥理冀當可耳然異極亦不得近生冷」

書き始めるまでは、ここをこうしようと考えていたり、あるいは全く違うことを考えていたり。でもいざ筆を動かし始めると無心になれるこの無心の時間がとても好きです。



2

大泉陽輔　四回生
臨書　隷書　楊岘『隷書文語四屏』　二尺×八尺

「三館生或至…」

京大書道部で楊岘をもっともよく書けるのは俺。根拠のない自信のもと意地で書き上げました。楊岘ひとすじ三年。本作をひとつの区切りとするが、いつか必ず帰りたい。



3

角谷遊野　二回生

臨書　行草　傅山『五言律詩幅～杜甫「早起」～』　二尺×八尺

「春来常起早、幽事頗相關。… 僕来城市、餅中得酒還。」

力強さとおおらかさを備えた傅山の字に魅了されました。筆の勢いや力の強弱がありありと伝わるような、生命力のある字を書きたいと思い、試行錯誤を重ねています。



4

北堀雄大　三回生

創作　前衛　『冬暮』　二尺×八尺

「記号」と「意味」の接近。

No Image

5

藏岡凌平　二回生
創作　行草　『返照』　二尺×八尺



「楚王宮北正黄昏　白帝城西過雨痕　返照入江飜石壁　歸雲擁樹失山村　衰年病肺唯高枕　絶塞愁時早閉門　不可久留豺虎亂　南方實有未招魂」

初めての条幅創作となりました。せっかくの創作なので一見して臨書とは違うと思えるものにしたいと考えながらも、臨書してきた要素をとりこまなければ良い作品にするのは難しい…というジレンマに悩まされる見切り発車でしたが、確実に自分の中で書道の世界がひろがる機会になり、挑戦して良かったとは思っています。

6

篠原理那　二回生
臨書　行草　王鐸『香山寺作』　二尺×八尺



「細逕翠微入　幽香塵跡稀　虚潭留色相　響谷發清機　人淡聽松去　僧閒洗藥歸　莫窺靈景外漠々一鷗飛」

大胆な線の中に繊細さと力強さを含むこの作品の魅力に惹かれ臨書しました。全体としてまとまった作品に仕上げるのは難しく行き詰まることが多々ありますが、あれこれ試行錯誤しながら作品制作をしていくのは本当に楽しいです。見ごたえのある書になっていればと思います。

7

宗哲仁　二回生

臨書　行書　王羲之『蘭亭序』　二尺×八尺



「永和九年歳在癸丑暮春之初會于會稽山陰之蘭亭脩禊事也群賢畢至少長咸集此地有峻領茂林脩竹又有清流激湍」

書道部に入ったからには必ずこのサイズに挑戦しよう、ということで、ちょうど一年前の書展の時と同じ、蘭亭序を臨書しました。線質にこだわりながら、行を感じられるように気を配りました。柔らかさと鋭さが共存できていればと思います。

8

津金澤秀行　一回生

臨書　楷書　董其昌『千字文』　二尺×六尺

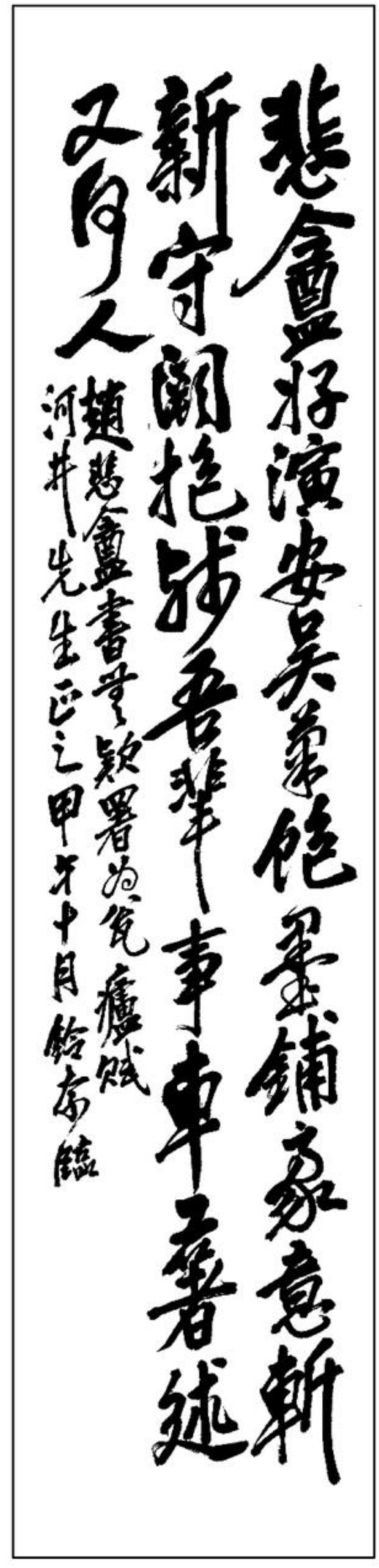


「堂習聽禍因惡積福緣善慶尺壁非寶寸陰是競資父」

この本は、ある日母親から煮物とともにクール便で送られてきました。後で聞くと、息子が書道部に入ったと聞いたので送ってきてくれたそうです。いい母親を持ったものです。親孝行もしないとなぁ。

9

徳川鈴奈　二回生
臨書　行書　呉昌碩『七言絶句幅』　二尺×八尺



「悲盦好演安呉筆　飽墨鋪豪意斬新　守闕抱残吾輩事　車工箸述又何人」

初めて二八を書き、初めて呉昌碩を臨書しました。今までに書いたことのないサイズにわくわくして一文字一文字おもいっきり書きました。そのせいもあって初めは文字が入りきりませんでした。本来は悲しい情緒を表した詩ではございますが、力強さを感じ取っていただければ、と思います。

10

眞嶋優一　一回生
創作　かな　志貴皇子『冬の歌』　二尺×六尺



「芦辺行く　鴨の羽交に　霜ふりて　寒き夕べは　大和し思ほゆ」

万葉集第一巻の六十四番の歌です。今回、この大きさの仮名を書くのが初めてで、とくに線の流れや散らしの調子、全体のバランスをとることに苦戦しました。墨の濃淡や枯筆の表現にも注目して見ていただけたらと思います。

11

矢野凱己　一回生

臨書　楷書　鄧石如『贈曹儷笙四體書屏』　一・二尺×八尺

「周續之宇道祖鴈門人居豫…」

楷書と隷書が好きな自分にとって、この法帖はピッタリで見た瞬間に一目惚れしたので書くことを決めました。原本のようにきれいにスッキリ仕上げることに重点を置いて頑張りました。ご批評の程よろしくお願いします。



12

山﨑絢香　二回生

臨書　草書　傅山『五言絶句幅』　二尺×八尺

「朝日點(照)紅妝、擬上銅雀臺。畫眉猶未竟、魏帝使人催。」

傅山が残した「書は寧ろ拙なるも巧なることなかれ、寧ろ支離なるも軟滑なることなかれ」という言葉に思いをはせつつ、全身を使って楽しく書きました。うねるようなエネルギーを感じていただけたらと思います。



13

渡辺健介　四回生

創作　行草　『良寛「衆星羅列禿樹花」』　二尺×八尺



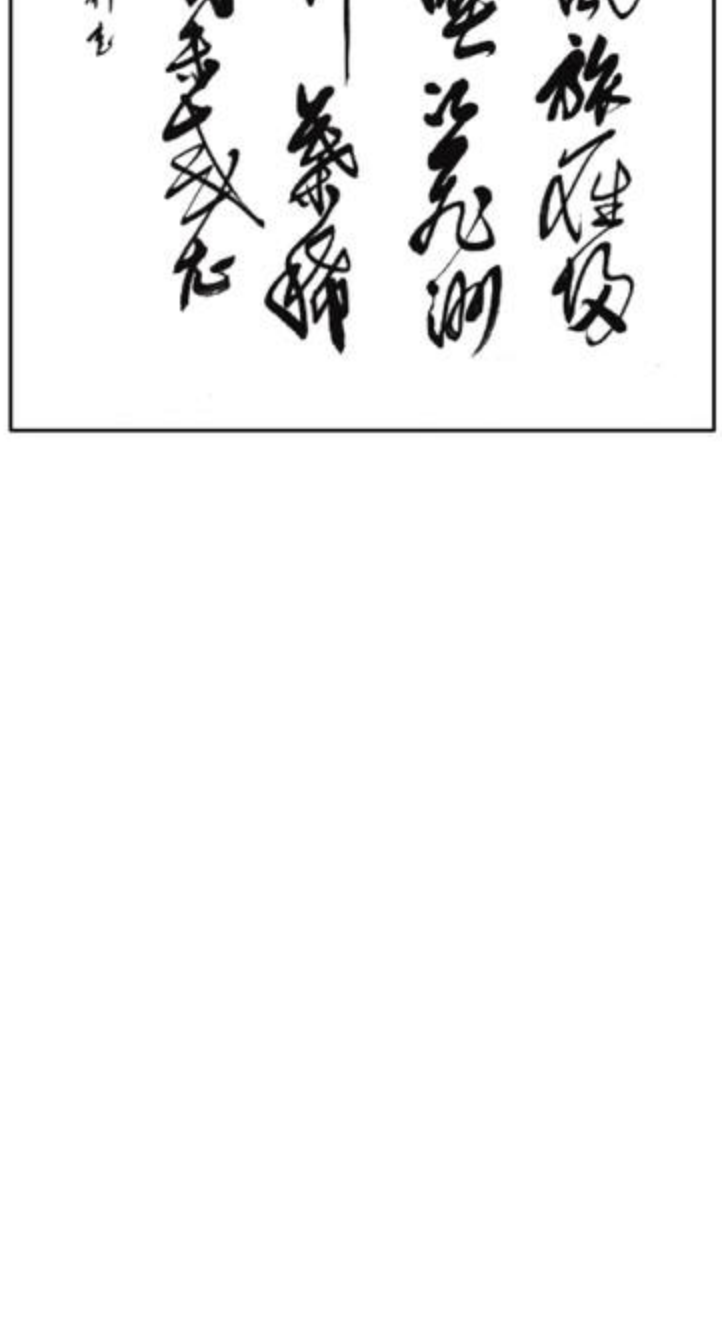
「衆星羅列禿樹花　遠渓流落無弦琴」

良寛の感じた情景がそのままわきあがってくるような作品を目指しました。四年間二八に挑戦してきましたが、今回も二八という魔物に苦しめられました。

14

稲葉由花利　三回生

創作　行草　『岳陽晩景』　全紙



「晩景寒鴉集　秋風旅雁帰　水光浮日去　霞彩映江飛　洲白蘆花吐　園紅柿葉稀　長沙卑濕地　九月未成衣」

初めて創作に挑戦しました。何から何までいろいろな人にアドバイスを頂いて、試行錯誤の末にやっと形になりました。行と行間の美しい作品を目指しました。





15

新井一矢　二回生

臨書　篆書　呉譲之『庾信詩』　半切二連

「高閣千尋跨。長廊四望齊。雲度三分近。花飛一倍低。吹簫迎白鶴。照鏡舞山雞。何労愁日暮。未有夜烏啼。聊開鬱金屋。暫合夫容池。水光連岸動。花風合樹吹。春杯猶汎酒。細果尚連枝。不畏歌聲盡。先看箏柱攲。」

呉譲之の篆書は、格調正しく伸びやかながらも、起筆や終筆に流麗さ感じられると評されています。その中でもこの「庾信詩」は、独特の端正な雰囲気が感じられる書だと感じました。端正な文字と清らかな筆遣いを少しでも感じて頂ければと思います。



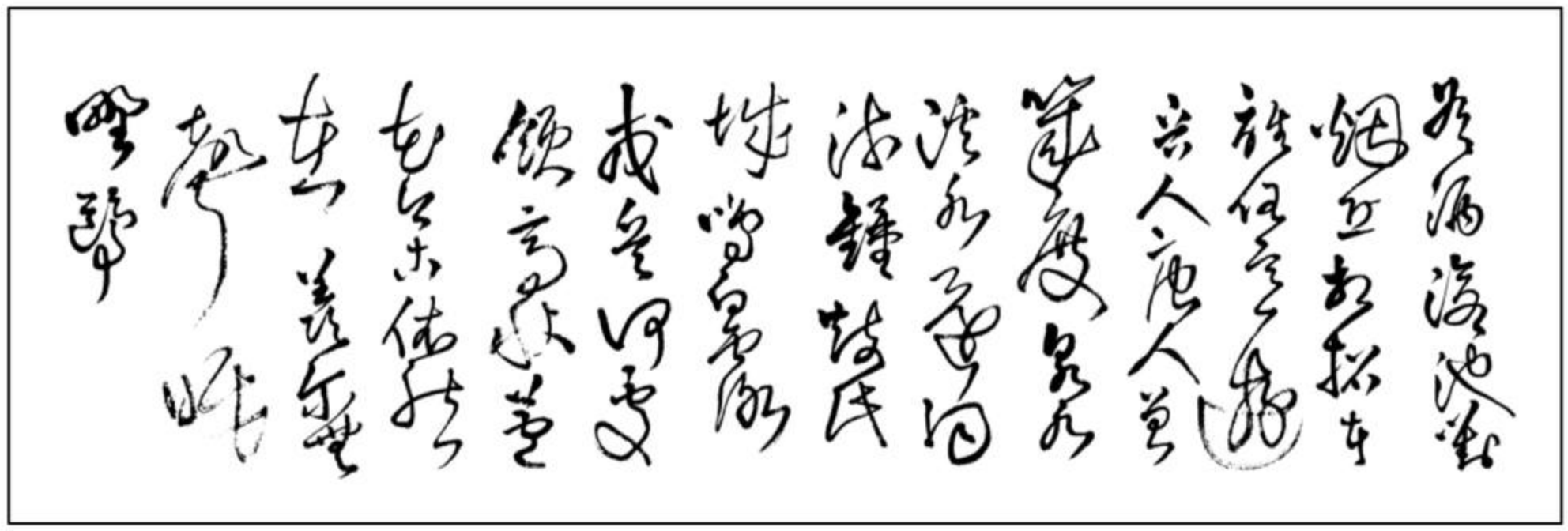
16

上西隆太　二回生

臨書　草書　王鐸『贈張抱一草書詩巻』

「有酒滄池烟丘相招者誰任意遊晉人唐人曾幾度泉水溪水水還同流鐘鼓此城鳴白露戎兵何処領高秋蘆花今古依然在羨尔無聲眠野鷗…」

この詩巻は、王鐸が五十一歳のとき、地方官であった張抱一から宴席に招かれ、そのお礼として揮毫したものといわれています。酔後の王鐸の奔放な書きぶりのためか、書く楽しさは格別でした。条幅作品が並ぶ中、少し屈んで巻子作品もお楽しみいただければ幸いです。



巻子

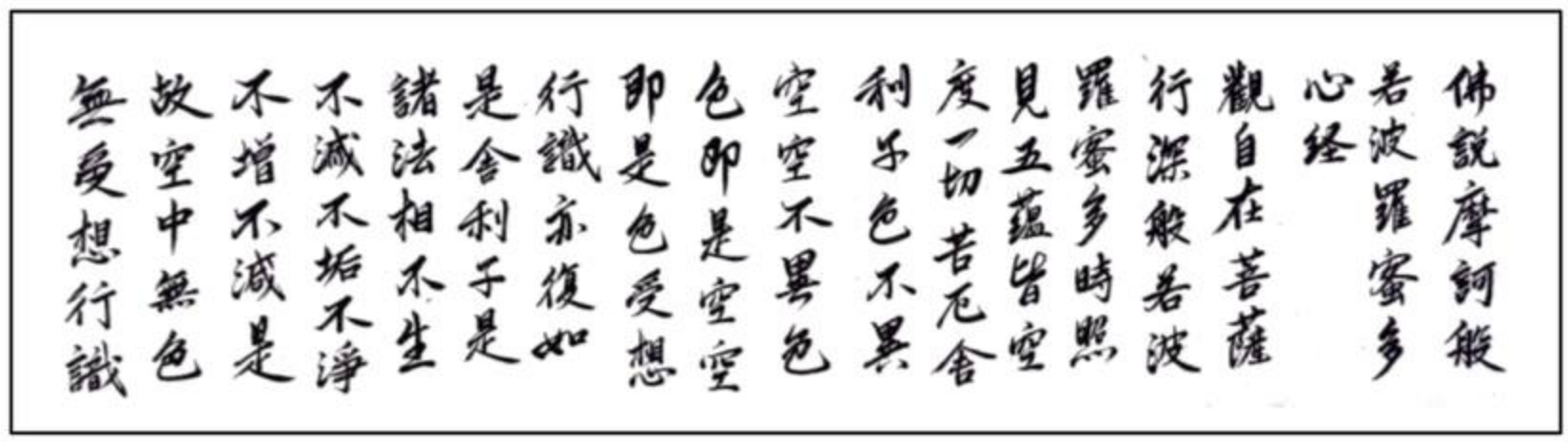
17

王隽齐　三回生

創作　行書　『心経』　半切三連

「觀自在菩薩。行深般若波羅蜜多時。照見五蘊皆空。度一切苦厄。舎利子。色不異空。空不異色。色即是空。空即是色。受想行識亦復如是。舎利子。是諸法空相。不生不滅。不垢不淨不增不減…」

不思議ですが、心が静めました。



佛說摩訶般
若波羅蜜多
心經
觀自在菩薩
行深般若波
羅蜜多時照
見五蘊皆空
度一切苦厄舍
利子色不異
空空不異色
色即是空空
即是色受想
行識亦復如
是舍利子是
諸法相不生
不滅不垢不淨
不增不減是
故空中無色
無受想行識
無眼耳鼻
舌身意無色
聲香味觸法
無眼界乃至
無意識界無
無明無無明
盡乃至無老
死亦無老死
盡無苦集滅
道無智亦無
得以無所得
故菩提薩埵
依般若波羅
多故心無罣
礙故無有恐
怖遠離一切顛
倒夢想究
竟涅槃三世
諸佛依般若
波羅蜜多故
得阿耨多羅
三藐三菩提
故知般若波
羅蜜多是大
神咒是大明
咒是無上咒
是無等等咒
能除一切苦
真實不虛
故說般若波
羅蜜多咒即
說曰
揭諦揭諦波羅揭
諦波羅僧揭諦菩
提薩婆訶般若心経
甲午秋　隽齐

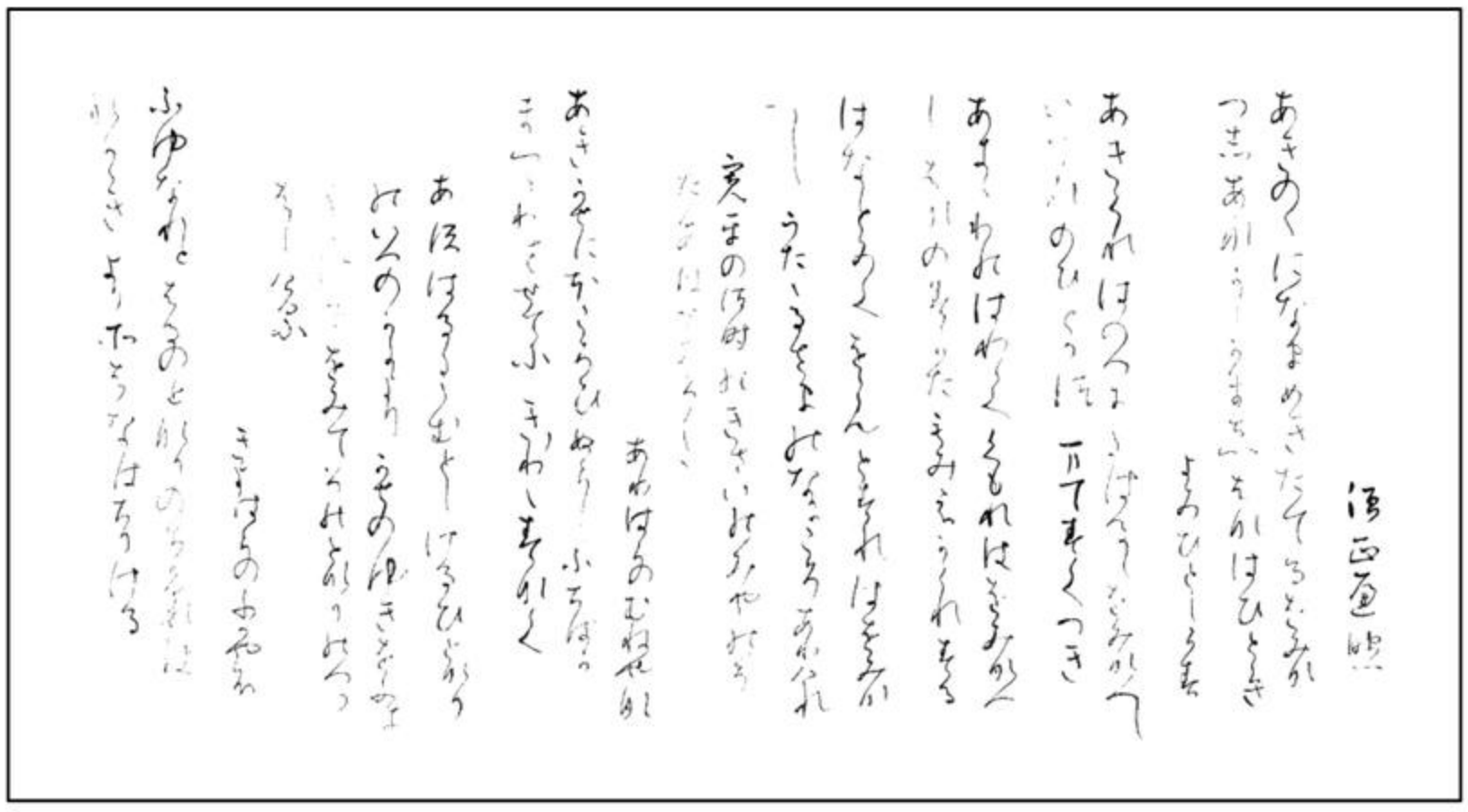
18

太田悠子　五回生

臨書　かな　伝紀貫之『高野切第三種』　古筆臨書紙

「あきのゝに　なまめきたてる　をみな（那）へし（志）　あな（那）か（可）しが（可）まし　（志）は（者）な（那）はひとゝき」

お手本の美しい流れが出るように、と練習してきました。歌は秋～冬のもので、それぞれの歌に含まれる爽やかさが伝わる作品になっていればと思います。



あきのゝに　なまめきたてる　をみなへし
つゆにあひつゝ　うつろふ
あきのゝに　なまめきたてる　をみなへし
いつのひとゝき　うつろひ

19

釜阪紘平　二回生
創作　行書　『薔薇色裏紅色変』　半切

「薔薇色裏紅色変」

イグチ科のきのこ Boletus rhodocarpus の和名を用いて創作しました。その名のとおり薔薇色のとても美しい管孔がありますす。また、こすったり傷つけたりすると、すぐに青く変色します。この管孔と変色性が大きな魅力で、それをストレートに伝えるすばらしい和名です。コメツガ林など針葉樹林に行かれると、出会えるかもしれません。

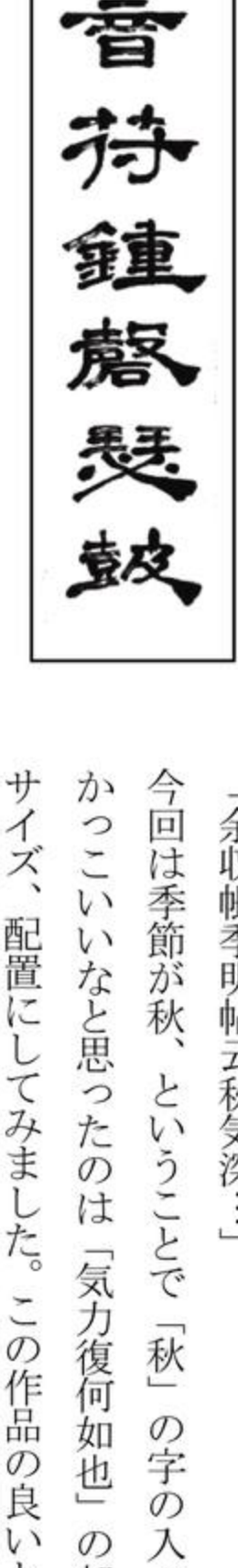


20

小島健史　三回生
臨書　隷書　『禮器碑』　半切

「造立禮器楽之音符鐘磬瑟皷雷洗觴觚爵鹿柤椓邊」

今までの自分に無い、清閑な作品を目指して書きました。ですが制作中の BGM はウルフルズでした。音量も割と最大でした。



21

柴田翔　四回生
創作　草書　『逆 ―ほとばしる―』　全紙四分の三

「逆」

外界へ激しく逆るのは、内に強く秘めていたからこそ。



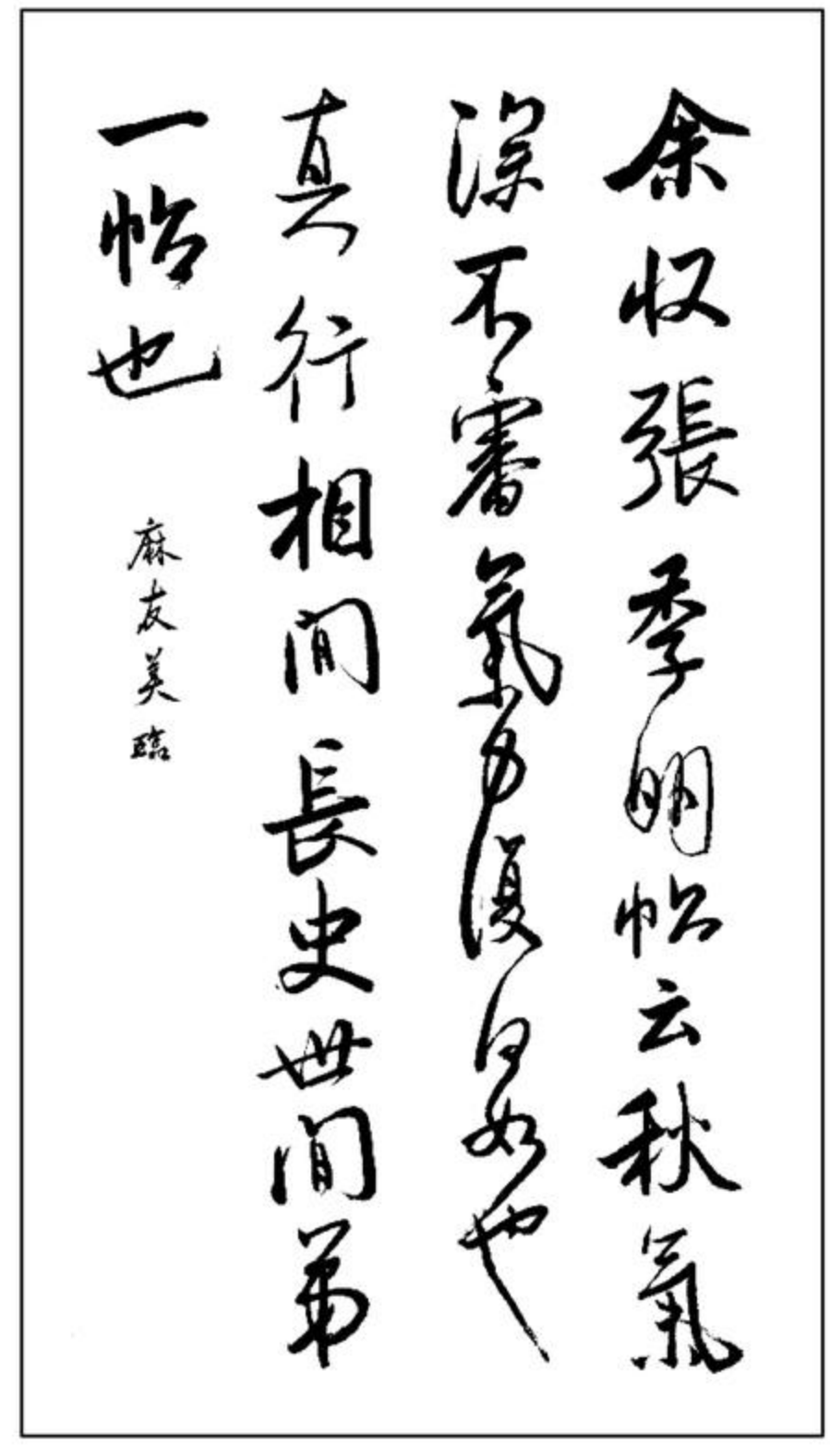
22

清水麻友美　一回生
臨書　行書　米芾『張季明帖』　全紙

「余収帳季明帖云秋気深…」

今回は季節が秋、ということで「秋」の字の入った作品を臨書しました。ですが一番かっこいいなと思ったのは「気力復何如也」の部分で、この部分が映えるような作品サイズ、配置にしてみました。この作品の良いところは線がのびのびとしているところだと思ったので、その特徴を表現できるよう気を付けました。

（作品写真は次ページに掲載）



23

下坂桃代　一回生

臨書　かな　伝紀貫之『寸松庵色紙』　色紙六枚（半切二分の一）

「す（春）が（可）は（盤）らのあそ（所）む（无）秋か（可）ぜのふき（支）あげ（介）に（尓）たて（弖）る（流）しらぎ（支）く（九）は（盤）花か（可）あらぬか（可）なみのよす（春）るか（閑）」高校生の時は、寸松庵色紙を十六枚臨書しました。今回は、一枚一枚の完成度を上げられるように六枚の臨書に取り組みましたが、なかなか納得のいく作品は書けませんでした。きれいな線を出すことに苦労しました。



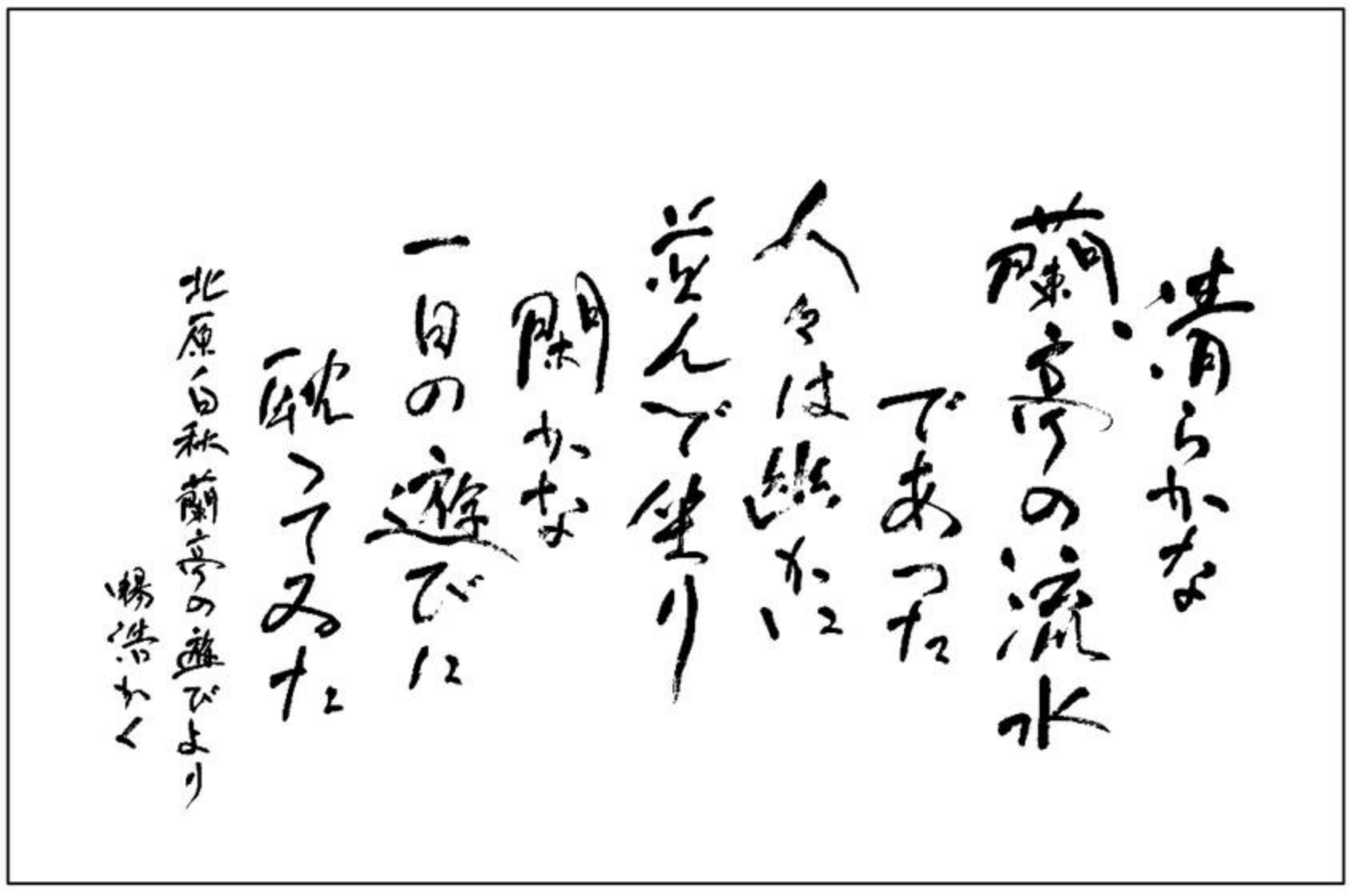
24

白谷暢浩　二回生

創作　調和体　『蘭亭の遊び』　全紙

「清らかな蘭亭の流水であつた　人々は幽かに並んで坐り　閑かな一日の遊びに耽つてゐた」

清らかで、温かみのある、そんな字を書きたい。



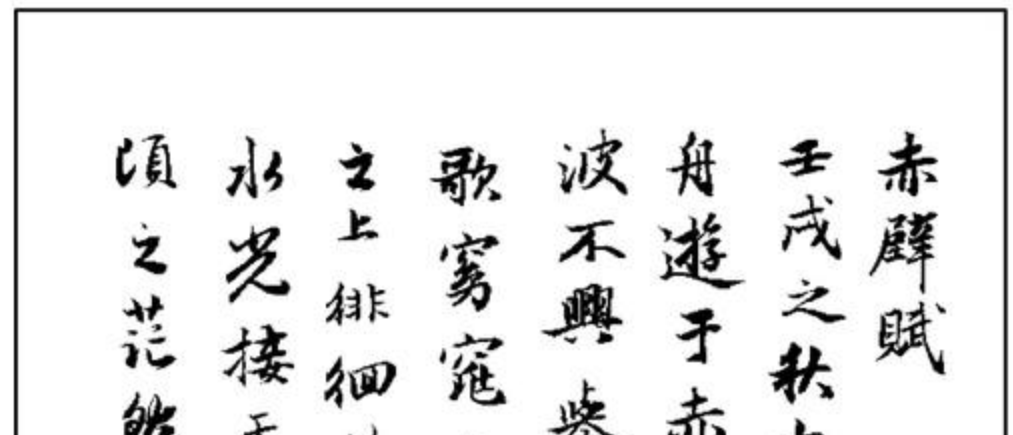
25

武田桃子　二回生

臨書　行書　趙孟頫『前後赤壁賦』　巻子

「赤壁賦　壬戌之秋 七月既望 蘇子與客泛舟遊于赤壁之下 清風徐來 水波不興…」

前回初夏書展で扱ったものと同じ作品を、今回はサイズを変えて書きました。前回は原本のサイズを拡大して半切に書きましたが、今回はサイズをそのまま、細字で書き、文字の数も多いです。同じ作品でも、字の大きさの違いでこんなに書いている感覚や全体の印象が違ってくるのかと思い、面白く感じました。



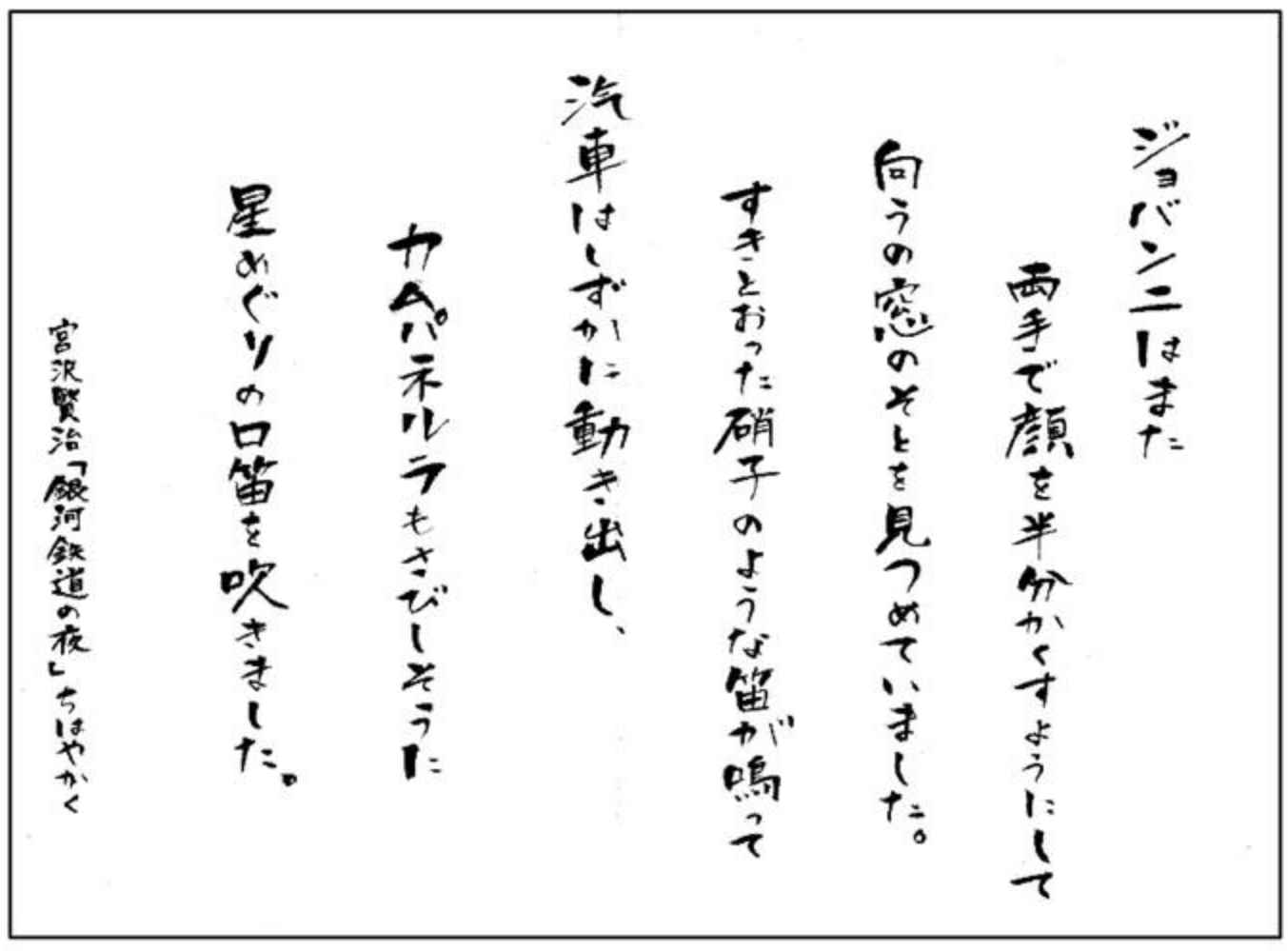
26

多門千早　四回生

創作　調和体　『銀河鉄道の夜』　半紙

「ジョバンニはまた両手で顔を半分かくすようにして向うの窓のそとを見つめていました。すきとおった硝子のような笛が鳴って汽車はしずかに動き出し、カムパネルラもさびしそうに星めぐりの口笛を吹きました。」

夏休み、宮沢賢治氏の故郷である岩手県に旅行へ行ったことをきっかけにこの物語を作品の題材に選びました。美しく切ない銀河鉄道の物語と、生きている間に作家として世から認められることなく終わってしまった作者の人生とに思いを馳せながら書きました。



27

中野綾香　三回生
臨書　楷書　智永『真草千字文』　半切

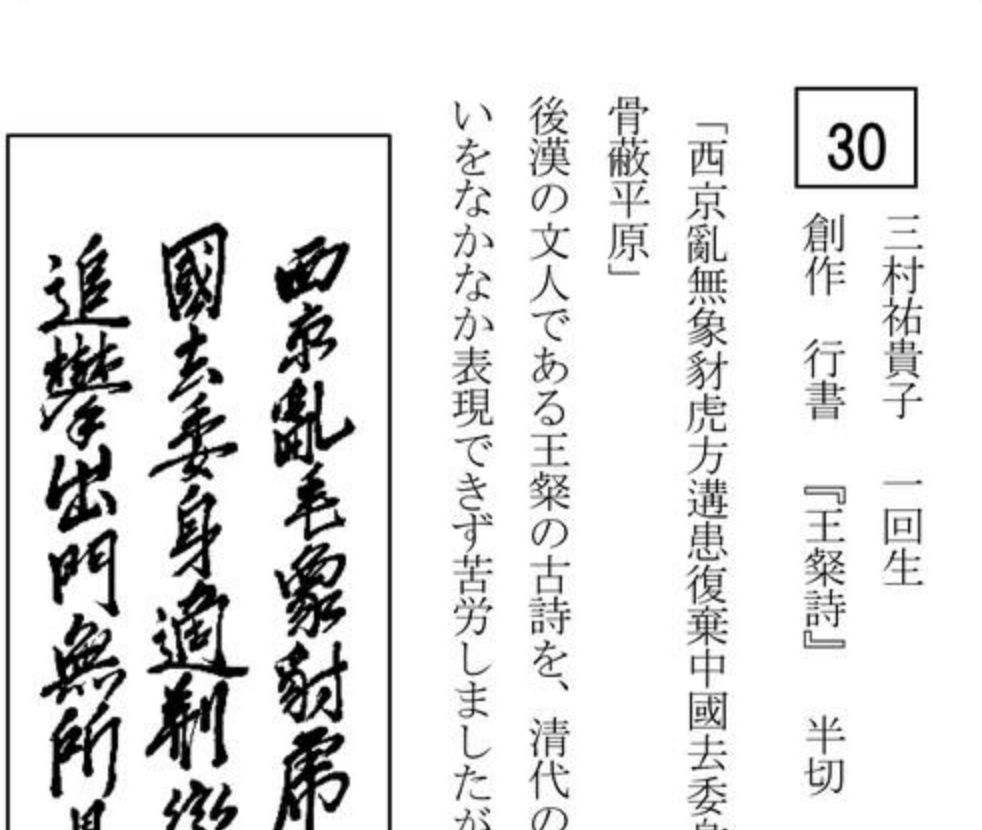
「欣奏累遣　慼謝歡招」
意味は「喜ばしい気持ちで心が満たされれば悩みや憂いは去り、楽しいことが自然に招かれるように集まる」で、我が家に飾るのにぴったり！とこれに決めました。



28

檜山葵　四回生
臨書　かな　伝藤原行成『針切』　巻子

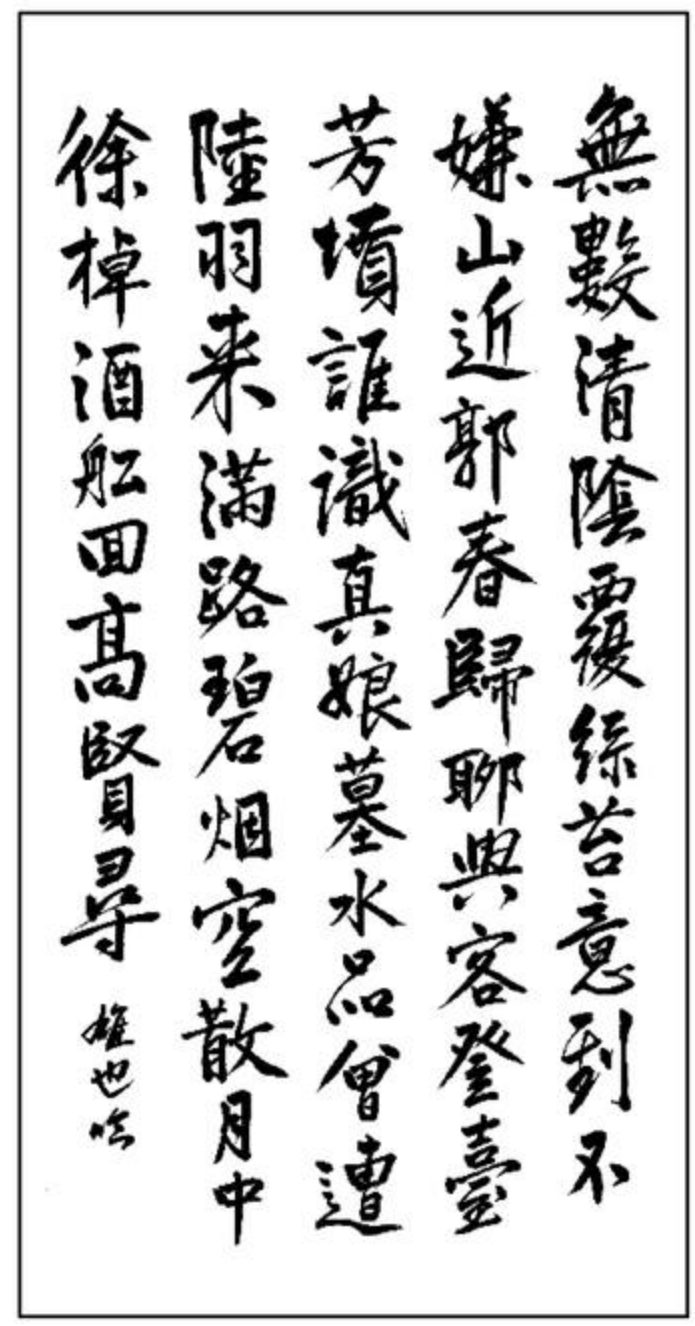
「ふるさとの花のさかり、ものへまかり〳〵はべる人に〳〵わかくさにこまひきとめてふるさとの花の〳〵さかりをみてもゆかなむ〳〵ほふりにまいりはべりて…」
鋭く直線的でありながら、書いてみるとその流れるようなリズムの良さにますます魅了される作品です。三蹟の一人である藤原行成はどんな気持ちで書いていたのか。そんな想像もしながら、夢中になって練習しました。



29

藤田雄也　三回生
臨書　行書　文徴明『行書詩巻』　全紙

「無數清陰覆綠苔意到不嫌山近郭春歸聊與客登臺芳墳誰識眞娘墓水品曾遭陸羽来滿路空碧烟自散月中徐棹酒船回高賢尋」
以前やったことのある全紙5行という構成に今回再挑戦しました。原本を忠実に再現するというよりは、作品としてのまとまりを重視しました。



30

三村祐貴子　一回生
創作　行書　『王粲詩』　半切

「西京亂無象豺虎方遘患復棄中國去委身適荊蠻親戚對我悲朋友相追攀出門無所見白骨蔽平原」
後漢の文人である王粲の古詩を、清代の書家、呉昌碩で集字しました。独特の癖と勢いをなかなか表現できず苦労しましたが、少しでも伝わっているでしょうか…。

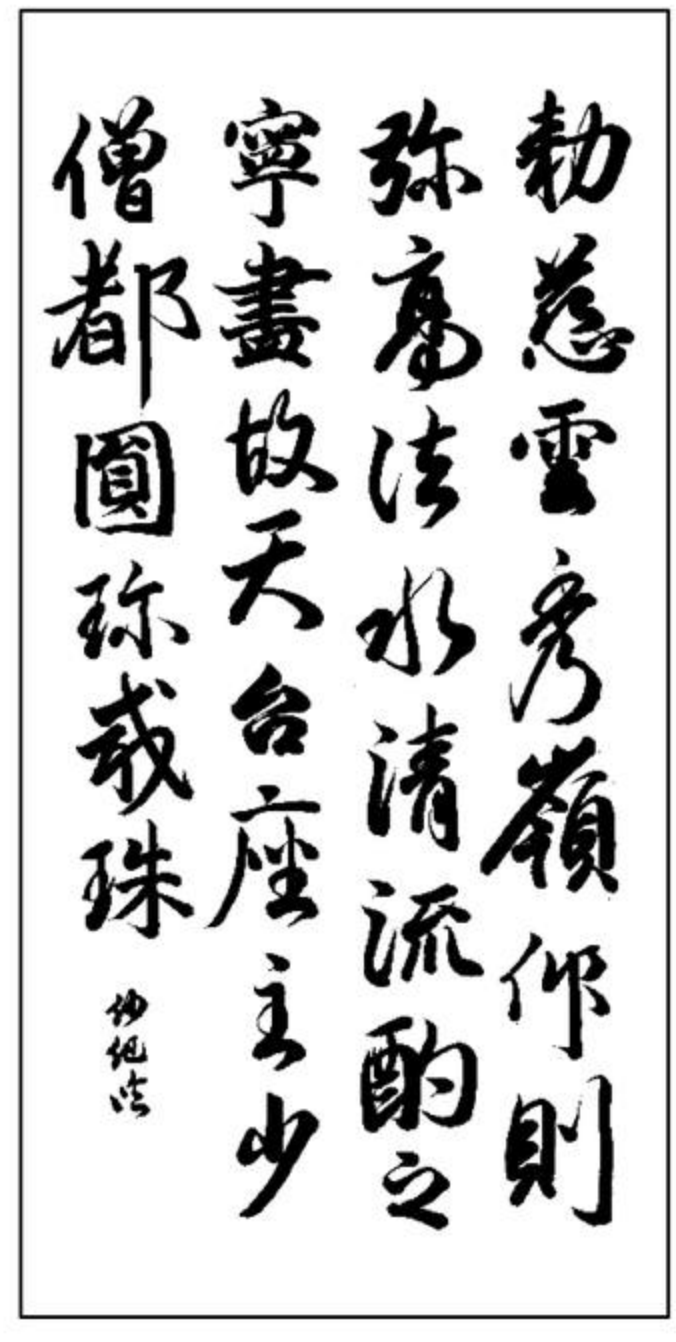


31

寶官紗紀　二回生
臨書　行書　小野道風『智証大師謚号勅書』　全紙

「勅慈雲秀嶺仰則弥高法水清流酌之寧尽故天台座主少僧都円珍戒珠」

今回も日本の書家さんの臨書に挑戦しました。もっちりした線の中にも鋭さや力強さがあり、かつ柔らかい印象もある原本の雰囲気に近づければ…と思いましたが、なかなか難しいものですね……。一人で書いているとすぐ迷子になってしまうので、みんなで書道出来る環境の有り難さが身に沁みます…。

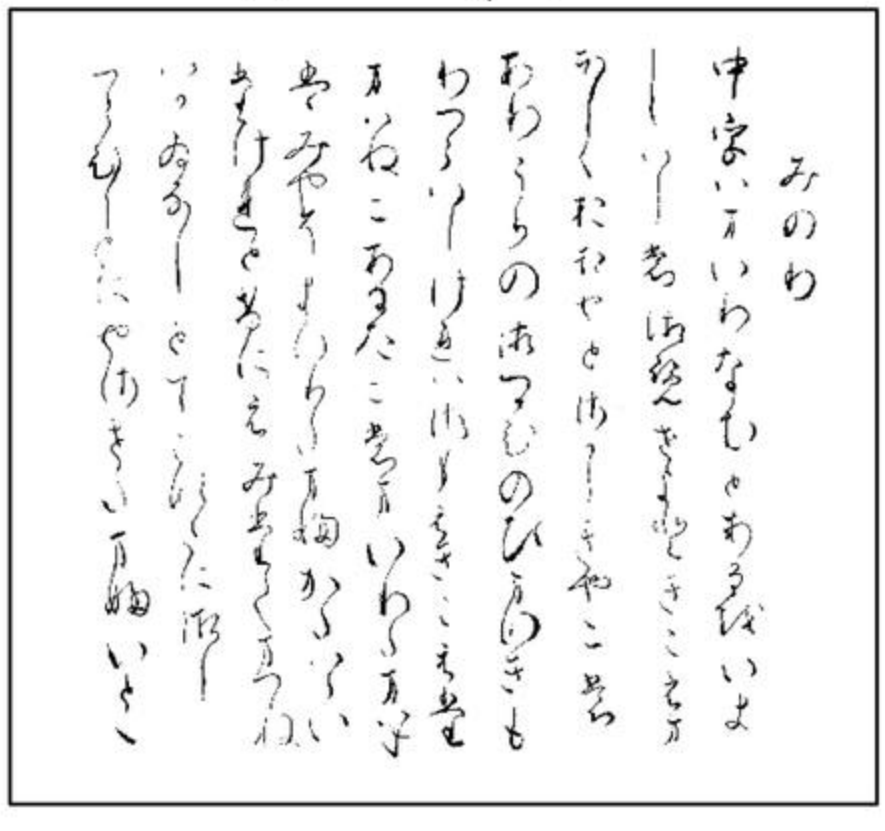


32

宮下拓也　三回生
臨書　かな　伝藤原伊房『源氏物語絵巻〈御法〉』
(22cm×24cm)×5

「中宮は、まいりなむとあるを、いましばしも御覧ぜよと、きこえまほしくおぼせど、…」

一年半この作品を見つめて来ました。練習が、あまり近づけませんでした。練習不足が本当に悔やまれます。



33

家倉凌　三回生
臨書　篆書　趙之謙『急就篇』　全紙

「進近公卿傳仆勳　前後常侍諸將軍　列侯邑有土臣封　積學所致非鬼神」

感情、表情、情趣…「情」は書道の大きな魅力であり、僕自身、今までそれを最重視してきました。しかしこの作品を見たとき、文字そのものが内包する、人の心などお構いなしに成立する美しさが心に響きました。僕の書道観を大きく広げてくれた作品です。



34

家倉凌　三回生
創作　草書　『花落知多少』　半切

「花落知多少」

ひとつには自叙帖で学んだ空間処理を一行の創作で表現してみたかったこと。もうひとつには、まっ赤な紙に超濃の黒という配色への憧れ。



35

山口和樹　一回生
臨書　楷書　顔真卿『多宝塔碑』　半切

「下誦持法華香煙不斷經聲遞續炯」

書道の楽しさと難しさを知った今日この頃、麻雀の楽しさと難しさも知りましたが、勉学に関しては難しさばかりを感じております。



36

山崎夏野　一回生
臨書　行書　王羲之『集字聖教序』　半切

「華之世凝情定室匿迹幽巖栖息三禪」

私が京大書道部に入部して初めての作品です。繊細ながらも力強い字がかっこよかったのでこの字を書くことにしました。王羲之が特徴とする、鋭い入筆やたっぷりとした線を再現することに苦労しましたが、この書展をきっかけとして大きく成長できたらと思っています。



37

山下燎亮　二回生
臨書　草書　勝海舟『誌書』　全紙

「仰天有所思心遠苦目短　西風駆残雨千里月華満」

小学校時代憧れだった幕末時代の偉人である勝海舟の書を書く日が来るとは…少しでも歴史に名を残す人の人となりを知れた気がします。



38

山本大翔　四回生
臨書　行書　聖武天皇『雑集』　半切

「光同四衆眼…」

三回生の時、少数字・創作チックに書いた聖武天皇の雑集を、今回は多字数・臨書寄りに書かせていただきました。最近臨書作品を手掛けていなかったせいか、この作品に取り組むことでまた違う臨書の難しさが体感できました。自分らしさを組み込んだ作品制作に臨め、最後に臨書を選んで本当によかったです。



39

山本大翔　四回生

創作　調和体　『名前のない鳥』　半切

「名前のない鳥は今日も飛べずにいつしか記号に変わってしまったの配置こそが美徳なんて」

今年見つけた中でも一押しのアーティスト「パスピエ」の曲です。実はこの作品は、サビのものすごく中途半端なところまでしか書いていません。この作品に興味を持った方、この後の歌詞を知りたい方は、是非 YouTube で「パスピエ」と検索を(笑)。



40

木下有羽、立田俊也、眞嶋優一、矢野凱己、山科直也、渡辺顕　一回生

創作　調和体　『未来』　全紙

「青空の底には無限の歴史が昇華している 僕もまたそれに加わろうと はとこしえの勝利がある 僕もまたそれに加わろうと 青空の底には 谷川俊太郎の詩「未来」の一部を抜粋して書きました。複数人で一つの作品を作り上げていたいと思い合作をすることにしました。なかなか構成が決まらず苦労したりもしましたが、何よりも楽しくできたことが良かったと思っています。



41　二回生合作　二回生
創作　『他己紹介』　180cm×90cm

広い広い世界の中で、僕たちは出会った。
書道が僕たちを導き、書道が僕たちを結び付けた。
くじけそうな夜も、徹夜明けの朝も、僕たちのそばには、いつも書道があった。
冬が終わり、春が来て、何度季節が巡っても、僕たちは忘れない。
二回生だった、あの冬のことを。

42　四回生合作　四回生
創作　『感謝～ありがとうは言いません～』　六尺×六尺

先輩、同回、後輩、部室、書道・・・京大書道部で過ごす間に感じたたくさんの感謝の気持ち。それを、あえて「ありがとう」という言葉を借りずに私たち一人一人だけの言葉で伝えたいと思います。私たちなりの精一杯の「ありがとう」、どうか届きますよう。

43　全体合作　全回生
創作　『京大書道部Q＆A』　180cm×270cm

京大書道部のあんなことやこんなことを、Q＆A形式で紹介します。書道部員たちの溢れ出すエネルギーを感じて下さい。

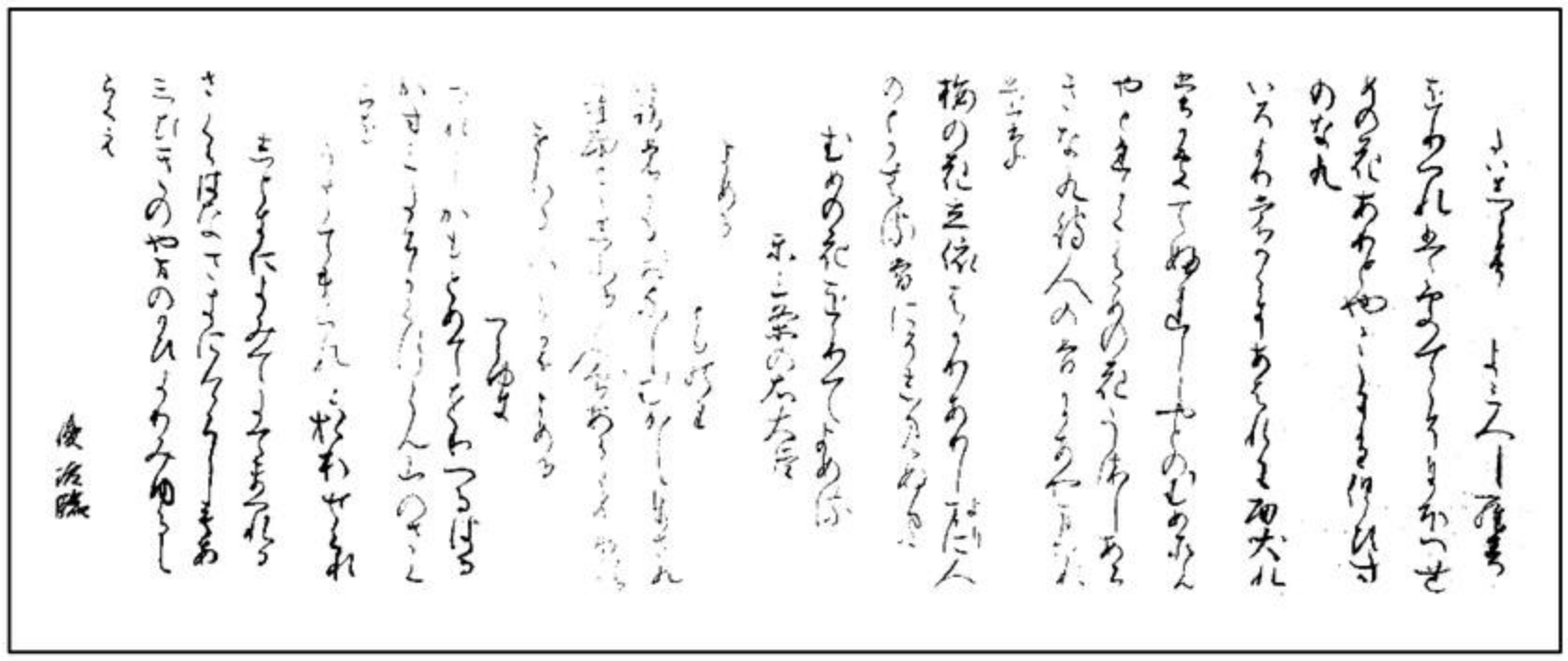
○禅居庵

44

伊東優治　四回生
臨書　かな　伝藤原行成『関戸本古今集』　半切約二分の一

「だいしらず　よみ人しらず　をりつればそでこそにほへむめの花ありとやこゝにうぐひすのなく…」

最近仮名の臨書を始めました。肩が凝りますが、とても楽しいです。ご批評をよろしくお願いいたします。ところで、図書館にある活字による古今和歌集と関戸本を見比べると、関戸本には書き間違いと思われる箇所が所々見られます。そういう部分を見つけると、むしろ手書きであることの温かみを感じ、書道の良さを実感します。

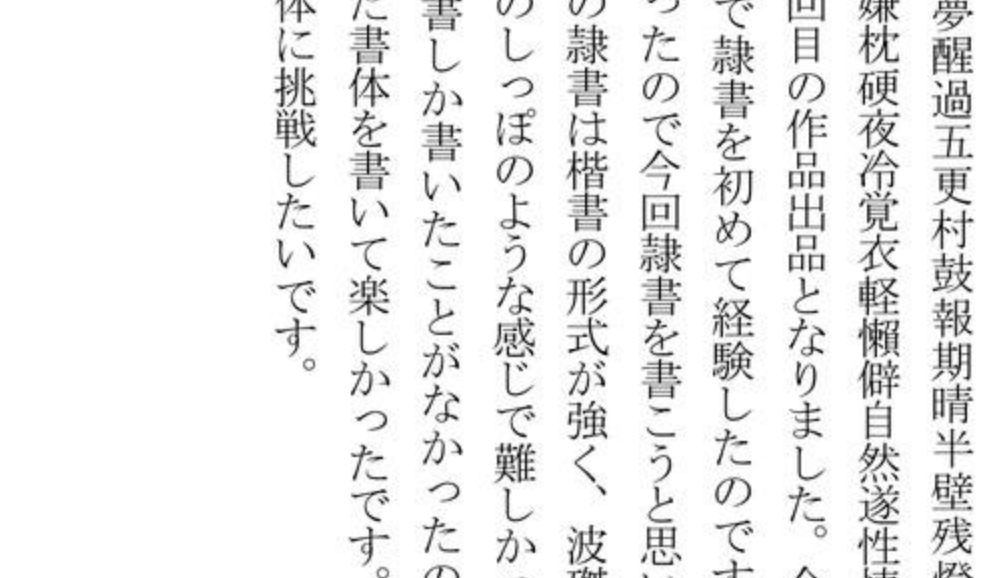


45

上村耕平　三回生
臨書　隷書　石川丈山『夢醒』　半切二分の一

「夢醒　夢醒過五更村鼓報期晴半壁残燈影孤牀落葉声年嬴嫌枕硬夜冷覚衣軽懶僻自然遂性情」

今回で二回目の作品出品となりました。今年の響都展の合作で隷書を初めて経験したのですが初書けなかったので今回隷書を書こうと思いました。石川丈山の隷書は楷書の形式が強く、波磔もおたまじゃくしのしっぽのような感じで難しかったです。今まで楷書しか書いたことがなかったのですが初めて違った書体を書いて楽しかったです。もっといろんな書体に挑戦したいです。



46

牛山泰喜　二回生
創作　隷書　『李白の詩 -静夜思-』　半切

「牀前看月光　疑是地上霜　擧頭望山月　低頭思故郷」

学年が上がるにつれ忙しさが増してきますが、忙しい中にも書道を通して心のゆとりが持てればいいなと思っています。最近は隷書しか書いてない気もしますが、その辺はご容赦願います。隷書が好きなので仕方ないのです。



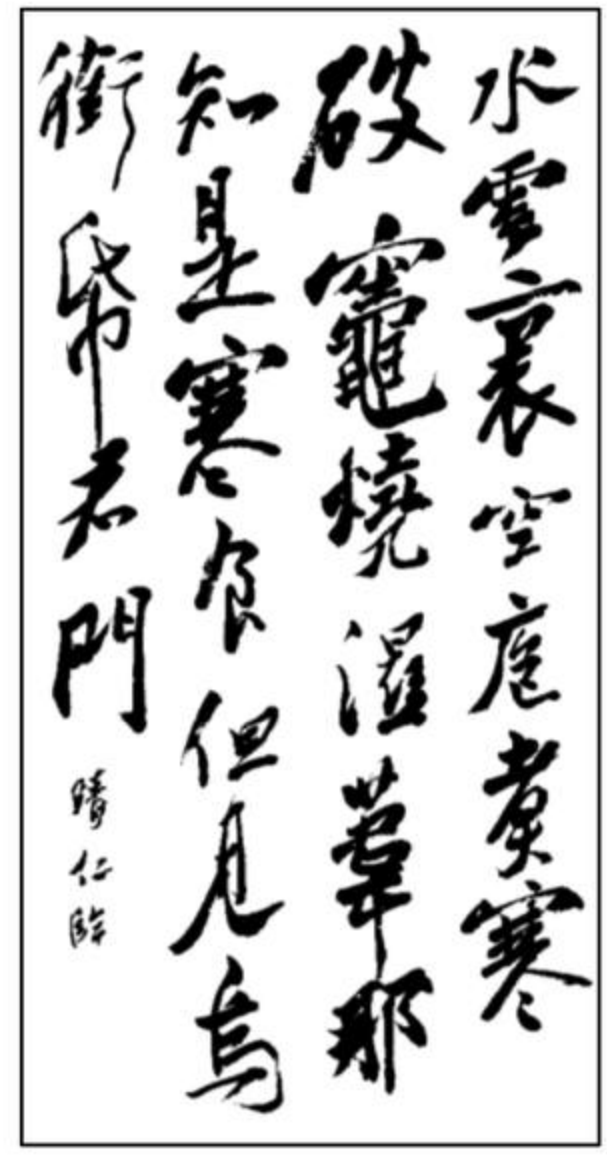
47

上井晴仁　二回生

臨書　行書　蘇軾『黄州寒食詩巻』　全紙

「水雲裏。空庖煮寒（菜）。破竈焼濕葦。那知是寒蜀。但見烏銜帋。君門」

いつもは字が太くなるのにいざ太い字を書こうとすると細くなってしまうんですよね、難儀なものです。原本の粗野な感じが出ていますでしょうか？



48

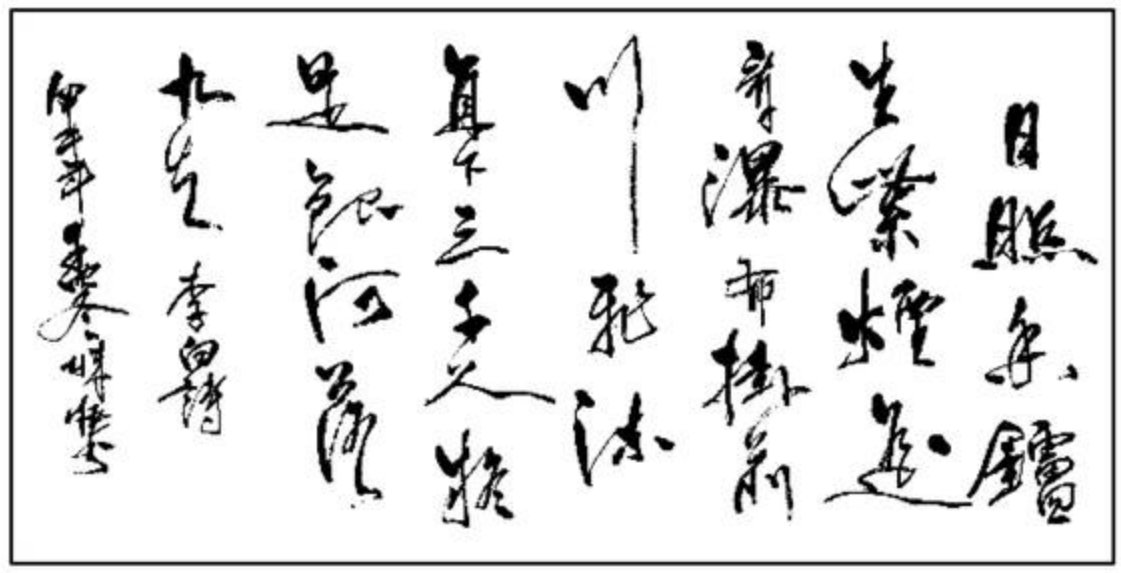
闇姝恒　二回生

臨書　行書　周彗君『望廬山瀑布』

全紙

「日照香炉生紫煙　遥看瀑布挂前川　飛流直下三千尺　疑是銀河落九天」

全然違うスタイルの作品を臨書して見ました。内容もわかりやすいものにしました。コメントよろしくお願いします。



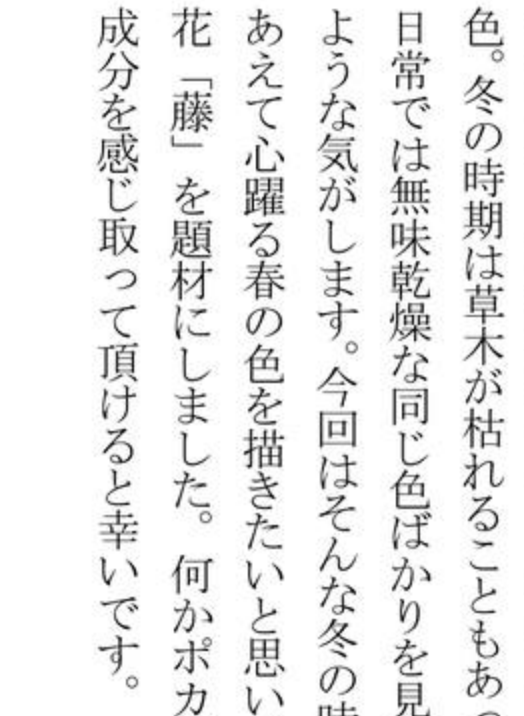
49

大庭諒介　修士一回生

創作　行書　水墨画　『紫藤樹』　50cm×65cm

「紫藤掛雲木　花蔓宜陽春　密葉隠歌鳥　香風留美人」

詩文は李白『紫藤樹』です。今回のテーマは色。冬の時期は草木が枯れることもあってか、日常では無味乾燥な同じ色ばかりを見ているような気がします。今回はそんな冬の時期に、あえて心躍る春の色を描きたいと思い、春の花「藤」を題材にしました。何かポカポカな成分を感じ取って頂けると幸いです。



50

笠原知生　一回生

臨書　行書　王羲之『蘭亭序』　半切

「觀宇宙之大俯察品類之盛所以遊」

書聖と称される王羲之の作品の中でも最も知られている『蘭亭序』の臨書に挑戦しました。一つ一つの線の入り方や、強弱について注意して臨書したので見てもらえると幸いです。



51

片野裕太　三回生

臨書　行書　黄庭堅『黄州寒食詩巻跋』　半切

「東坡或見此書應笑我於無佛處称尊」

キリっとしていて、かつ、グニャグニャしている、そんなバランスの良い作品を目指して取り組みました。文字は人を表すというので、この作品を取り組んだことで視野が広くて、噛んだら色んな味のするような人になれてたらいいなと思います。



52

川上澄香　四回生

創作　篆刻　『午睡』　半紙

「美睡清秋一榻風」

秋、冬は涼しいから好きです。のんびり丁寧に彫りたかったけれどそうもいきませんでした。デザインも線の感じも内容に合わせて考えましたが、美と睡の所がジャリジャリしていて滑らかな細い線にできませんでした。



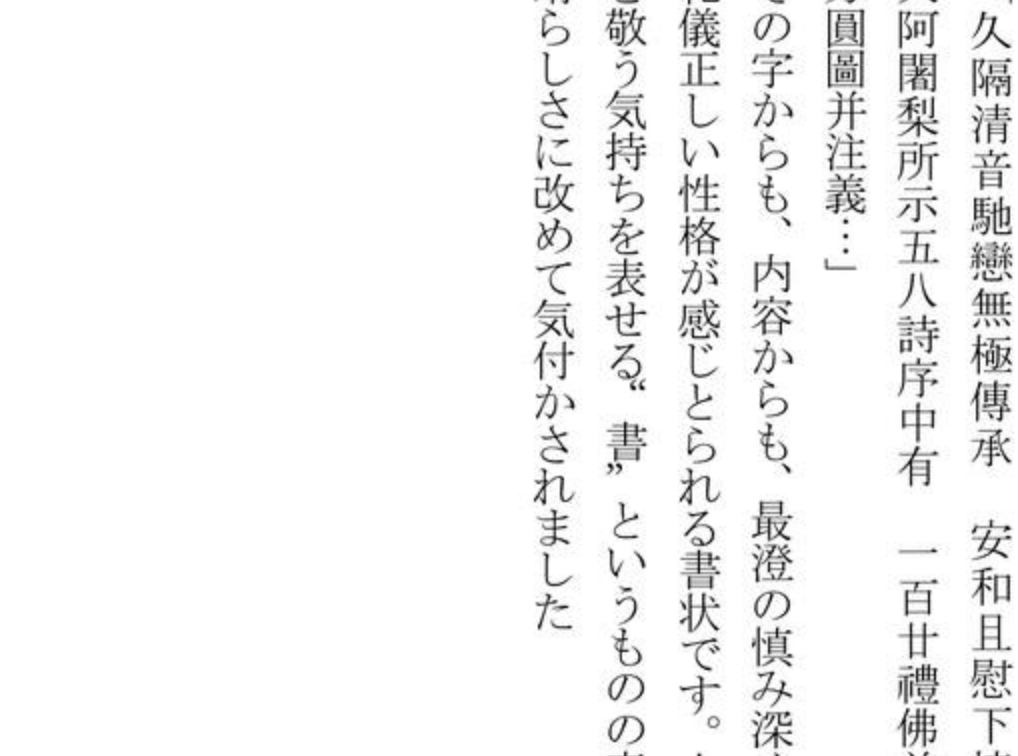
53

菊池悠里　四回生

臨書　行書　最澄『久隔帖』　縦30cm×横40cm

「久隔清音馳戀無極傳承　安和且慰下情大阿闍梨所示五八詩序中有　一百廿禮佛并方圓圖并注義…」

その字からも、内容からも、最澄の慎み深く礼儀正しい性格が感じとられる書状です。人を敬う気持ちを表せる〝書〟というものの素晴らしさに改めて気付かされました



54

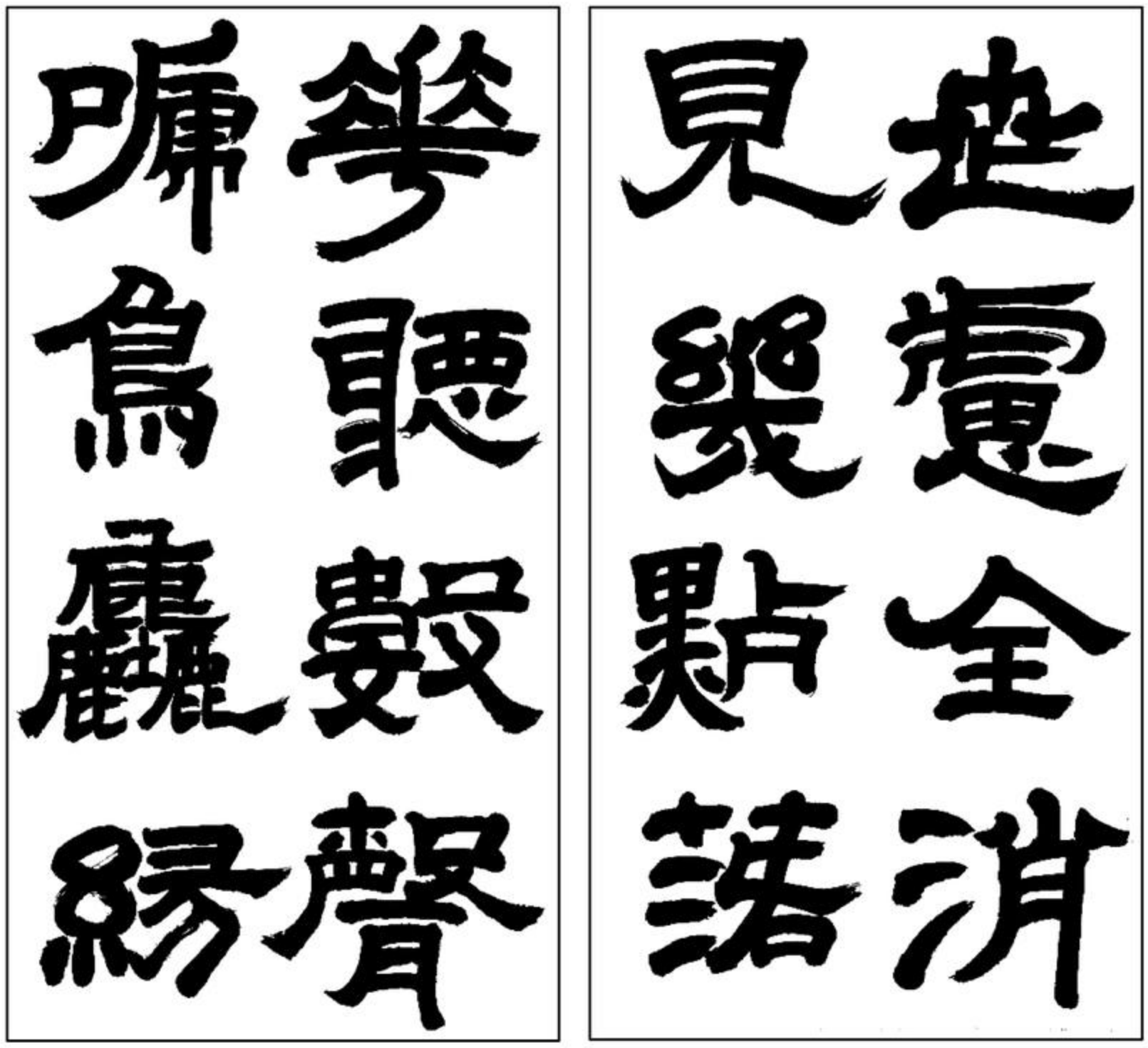
木下有羽　一回生

臨書　楷書　柳公権『玄秘塔碑』　半切

「方削平區夏縛呉斡蜀潴蔡蕩鄆而」

力強くかっこいい字に惹かれて臨書しました。アドバイスをもらいながら十四文字をひたすら書き込み、自分らしい作品に仕上げることができました。





55

小松聡子　四回生

臨書　隷書　鄧石如『世慮全消四屏』　全紙四連

「世慮全消。見幾点落華。聴数声啼鳥。麟緑割断。推半窓明月。臥一榻清風。」

力強く、かつ、整っている。

自分が受けた第一印象をそのまま表現したいと思い全臨しました。

院試勉強の息抜きに図書館でこの法帖と出会い、試験が終わったら思う存分書道をするんだ！ということを心の支えにして乗り切りました。この作品を大学生活の集大成として出品できることをとても幸せに思います。

56

島津七明　二回生
臨書　草書　傅山　『行草五言古詩巻』　全紙



「鄙即此大功徳。救濟窮桑梓。」
草書が苦手で今まで魅力を感じなかったのですが、この構成にはとても惹かれるものがあり臨書してみました。少し草書に慣れてきたので、もっと上手に書きこなせるよう頑張りたいです。

57

下坂桃代　一回生
創作　かな　『わがやどの』　半切



「わがやどの　いさゝむら竹　ふく風の　音の（能）か（可）そ（所）け（介）き（支）この（農）ゆ（遊）ふ（布）べ（遍）か（可）も（茂）」（万葉集）
初めて仮名の創作に挑戦しました。上品で雅な仮名の作品を目指しました。が、字にはその人があらわれるとも言うように、上品で雅な雰囲気をだすのに苦労しました。

58

惣塚勝也　二回生
臨書　行書　黄庭堅『松風閣詩巻』　半切



「東坡道人已沈泉。張矦何時到眼前。」
初めての作品です。文字一つもそうですが、文全体のバランスをとるのが難しいです。

59

立田俊也　一回生
臨書　楷書　歐陽詢『九成宮醴泉銘』　半切91



「可以澂瑩心神鑒暎…功得禮之宜則醴泉」
文字の絶妙なバランスをとることに苦労しました。半切四行は中心の空白が広がって見え、構成的によくないといわれましたが、それでも最後までこだわり今回を機に多字数作品に挑戦しようと思いました。法帖のような、字間が空きながらも整然とした雰囲気が再現できていればうれしいです。御批評のほどよろしくお願いします。

60

多門千早　四回生
臨書　行草　王鐸『寄山中無我禪友詩』　半切

「幽人知識甚盡默坐發虛光何處新風度満山靜香休蛇性金動虎心狂為我殷勤護山雲緝舊房…」

大学生活最後の書展にして初めての王鐸です。実家の床の間に飾れたらいいなという気持ちでこのサイズにしてみましたが、果たして床の間に合うような雰囲気を出せたのか如何…。墨の入りが多いところと、少ないところとの対比が活きた作品になっていればと思います。



61

多門千早　四回生
創作　調和体　『よい年を願って…』　A1（縦841mm×横594mm）

「この先ずっとずっと　よい年であれ　来年も再来年もその先もずっと幸せな年を迎えられるようにとの願いを込めて創りました。作品を見て下さった人達が笑顔になってくれますよう。

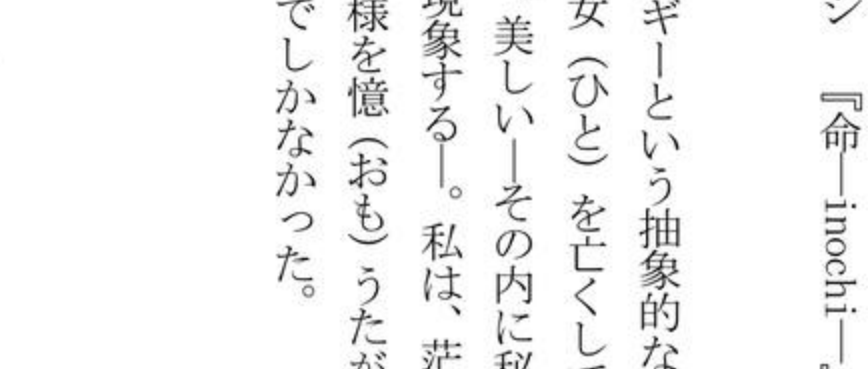


62

中川和也　修士二回生
創作　書体ナシ　『命―inochi―』　三尺×六尺

「命」

かつて、命のエネルギーという抽象的な理想ばかりを見ていた。だが、最愛の女（ひと）を亡くして考えが変わった。命は凄まじく、儚く、美しい―その内に秘めたるは、おのずからその「有様」に現象する―。私は、茫漠たる現実にひとつの具体的な命の有様を憶（おも）うたが、紙上に現れるのは空虚な不在の記号でしかなかった。

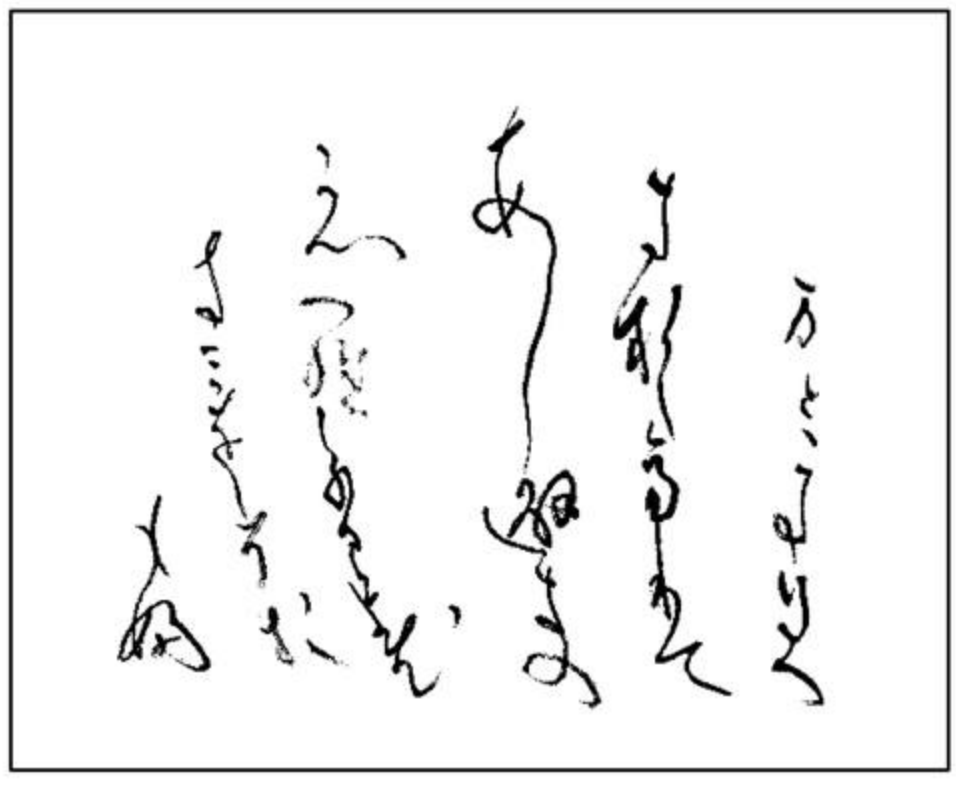


63

中谷百花　三回生
創作　かな　『窓越しに』　縦91cm×横71cm

「窓越しに　月おし照りて　あしひきの　あらし吹く夜は　君をしぞ思ふ」

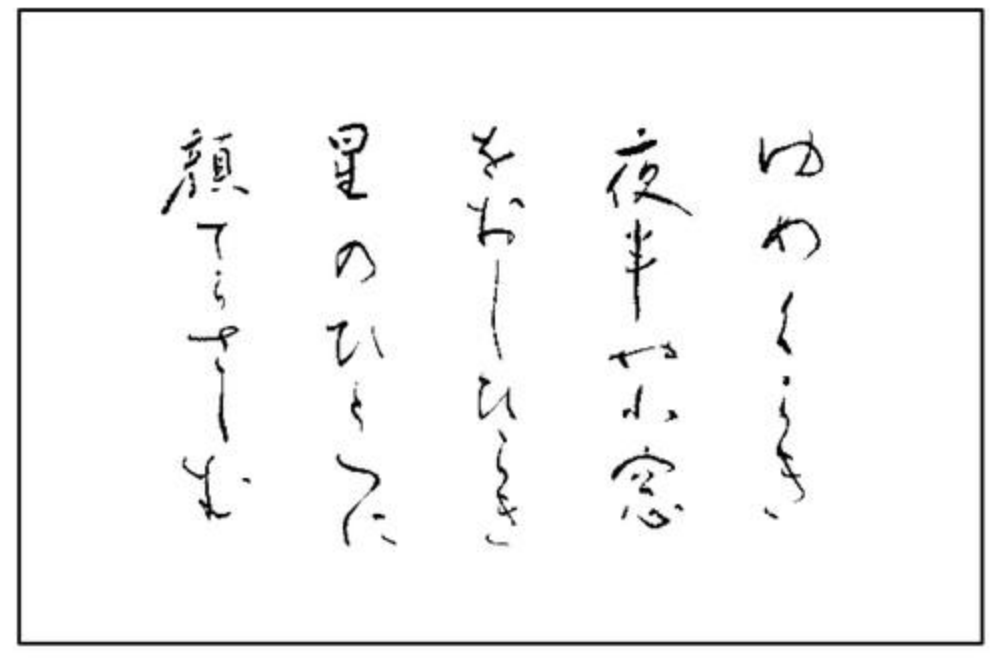
万葉集に収録されている作者未詳の短歌を題材に創作しました。歌の中で、「君をしぞ思ふ」でなく「君をしぞ思ふ」と強意が用いられているところから、作者の待ち人への思いが伝わってくるようです。まったくの余談ですが、万葉集が編集された時代に窓という概念があったことに驚きました！



64

橋詰奈央　四回生
創作　調和体　『星のひとつに』　全懐紙

「ゆめくらき夜半や小窓をおしひらき星のひとつに顔てらさしむ」
書き手の思いがそのままに立ち現われてくるような、文語体に魅了されています。誰もが読むことができる調和体を使って、書き言葉が持つ力をより強いものにできないか模索しました。



65

疋田研一郎　二回生
臨書　行書　米芾『審定帖』　半切

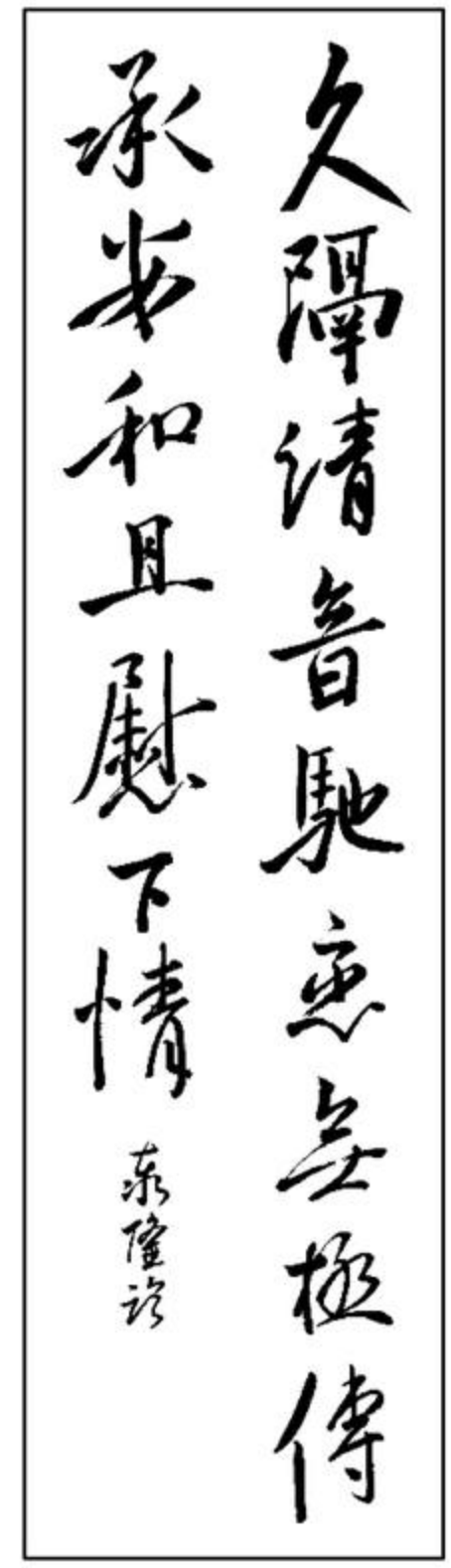
「孤騫類逸群鶴薫若振和風之麗霧露擢秋幹之鮮蕭慶雲映稿龍章動」
やはり米芾が書いていて一番しっくりきます。



66

平野泰隆　四回生
臨書　行書　最澄『久隔帖』　半切

「久隔清音馳戀無極傳承安和且慰下情」
清澄で格調高い雰囲気に引かれて臨書しました。作っていただけると嘉しく思います。ご批評のほどよろしくお願いいたします。



67

深谷拓未　一回生
創作　調和体　『中也詩　心象』　全紙

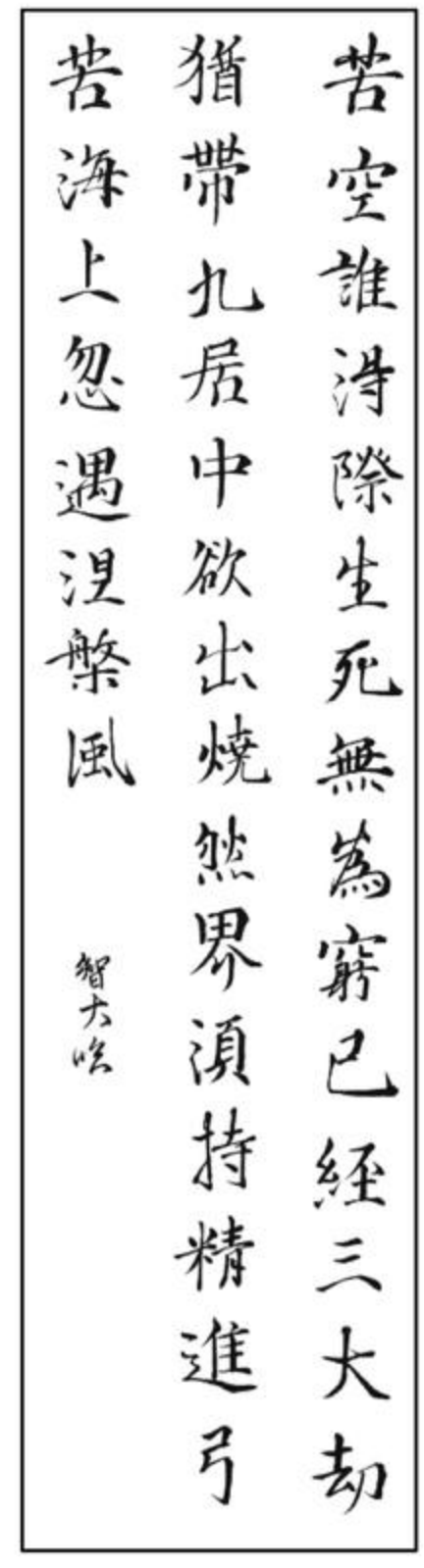
「心象　松の木に風が吹き　踏む砂利の音は寂しかった　暖かい風が私の額を洗い　思ひは遥かに懐かしかった　亡びたる過去の全てに　涙湧く」
一見して心に訴える何かを備えた作品を目指しています。直感的に「良い」と思うような。そのためにも構成には特に気を使います。また、筆、紙、墨は自分の思い通りにならないものなので、自分がそれらに合わせていくことが重要だと考えています。



68

古川智大　二回生
臨書　行書　聖武天皇『雑集』　半切

「苦空誰得際。生死無爲窮。已經三大劫。猶帯九居中。欲出燒然界。須持精進弓。由苦海上。忽遇涅槃風。」
まともな作品になるまでにかなり時間がかかった作品でした。こういう字、どんどん書いていきたいです。



69

堀場菜摘　一回生
臨書　行書　王羲之『集字聖教序』　半切

「四忍之行。松風水月。未足比其清華。仙露朋珠。」
華という文字にひかれて書きました。作品の良さを少しでも表現できていたら幸いです。



70

松澤祐実　三回生
臨書　行書　藤原行成『白樂天詩巻』　半切

「白雪吟時鈴閣開故情新興兩徘徊」
今回初めて文徴明以外の書家の臨書に挑戦しました。白雪という言葉や新という字ののびやかさが好きです。少しでも藤原行成の穏やかさが表現できていれば嬉しいです。



71

宮下拓也　三回生
創作　草書　『山』　全紙

「嶽」
御嶽、乗鞍、駒ヶ岳。一度登りたい山がそこにはあった。空高く飛ぶ赤とんぼに憧憬を抱いて…

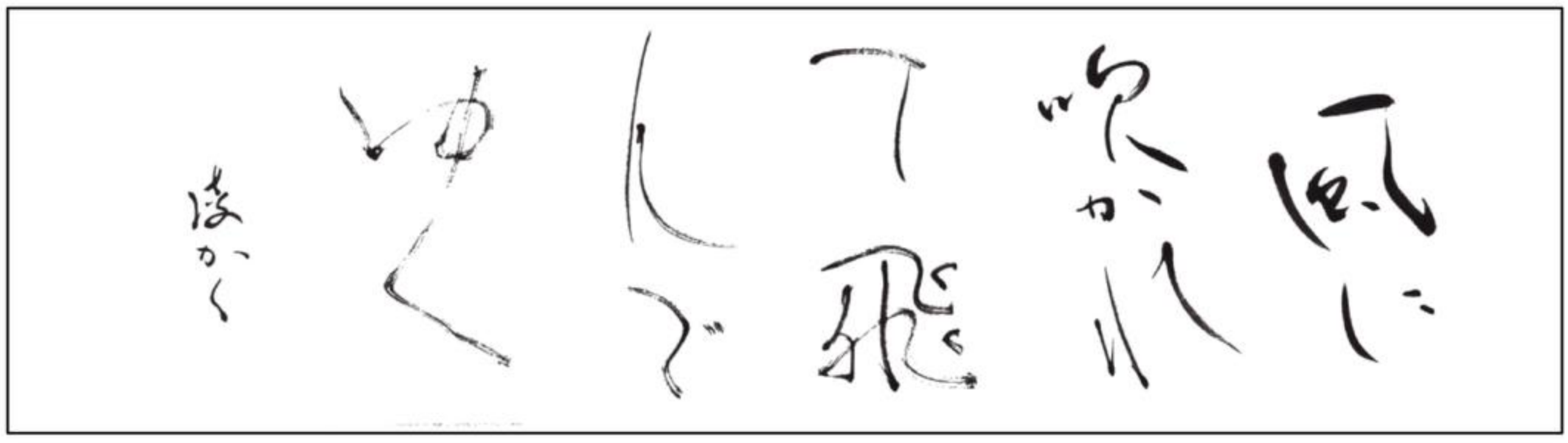


72

家倉凌　三回生

創作　調和体　『風に吹かれてゆく』　半切

「風に吹かれて飛んでゆく」
吹けば飛ぶこの身です。

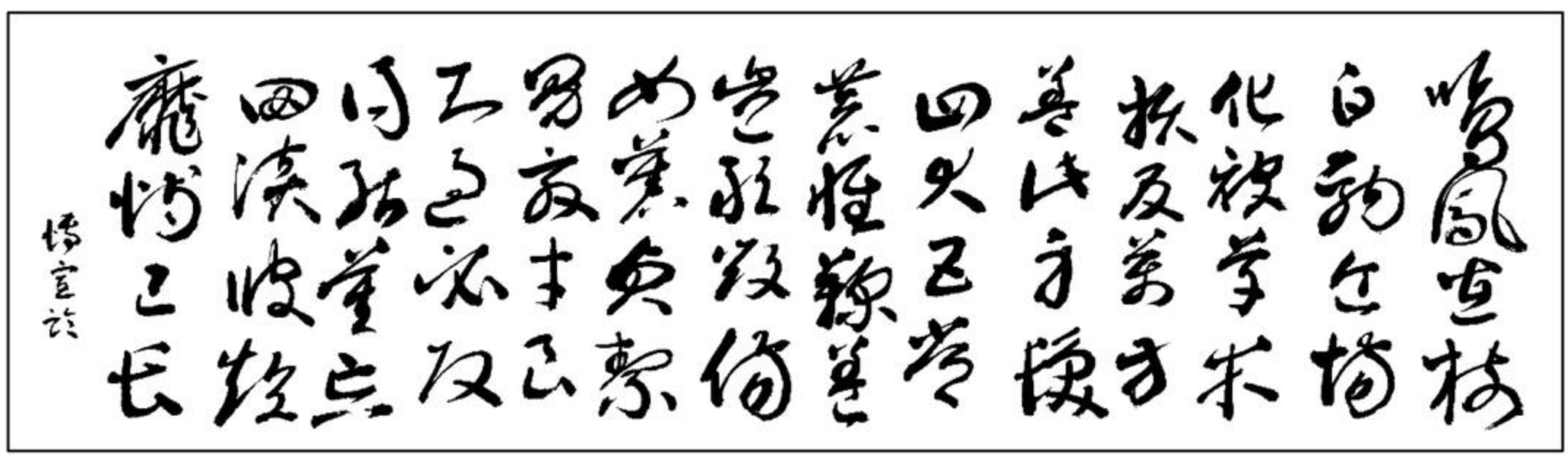


73

康村博宣　四回生

臨書　草書　智永『真草千字文』　半切

「鳴鳳在樹、白駒食場。化被草木、賴及萬方。蓋此身髮、四大五常。恭惟鞠養、豈敢毀傷。女慕貞潔、男効才良。知過必改、得能莫忘。…」
初の草書作品に挑戦してみました。一見してどんな意味か判らないからこそ見出せるものが人それぞれあるのかもしれません。字形も意味も共に気に入った所を書きぬいたつもりですが、そこに表れてる性格や雰囲気を少しでも感じ取って頂けたら幸いです。



74

山科直也　一回生

臨書　草書　王羲之『運民帖』　半切



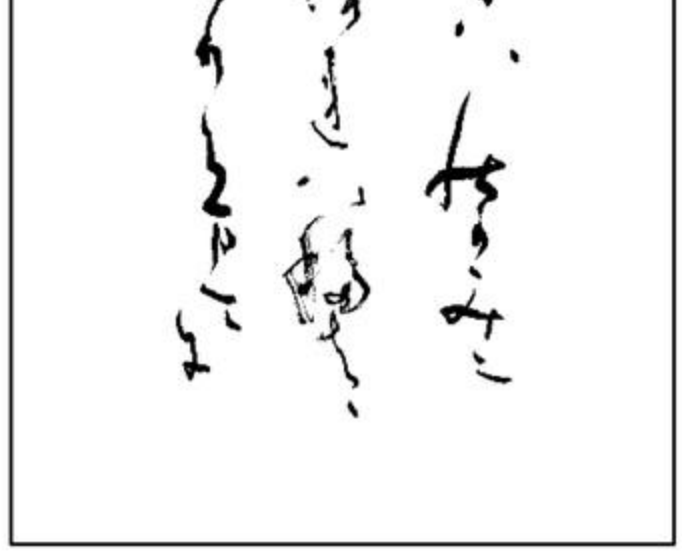
「運民不可得。而要当得。甚慮叛散。」

今回初めて草書の作品の臨書に挑戦してみました。元の作品の空間の見せ方や筆の動きなどがすごく気に入ったので挑戦しましたが、まだまだ十分に作品の魅力が出せませんでした。拙い作品ですがよろしくお願いします。

75

吉田梨沙　四回生

創作　かな　『庭中の』　聯落



「庭中の　阿須波の神に　小柴さし　我れは斎はむ　帰り来までに」

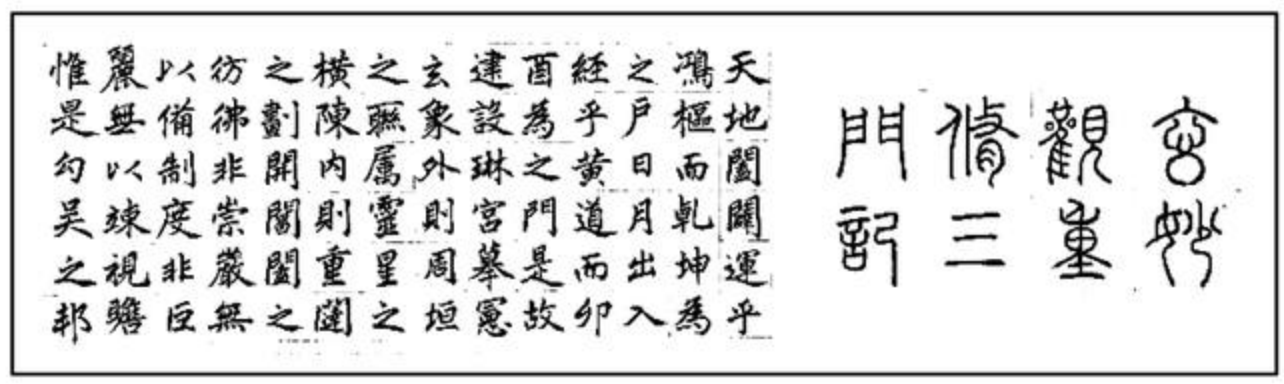
万葉集、巻20、4350番

「自分の家の庭にも、神様が棲んでいるかもしれない」という気がしてきます。

76

吉村友希　二回生

臨書　楷書　趙孟頫『玄妙観重修三門記』　巻子（半切×四）



「天地闔闢運乎鴻樞而軋坤爲之戸日月出入經乎黄道而卯酉爲之門是故建設琳宮摹憲玄象外則周垣之聯属…」

部室でこの法帖を見つけたとき、どうしても全部書きたくなってしまいました。一つの作品を通して、書家がどのような気持ちで書いていたのか、想像を膨らませつつ作品制作をしていると、あっという間に時間が過ぎてしまいます。

77
石博昭　三回生
創作　英文・篆刻　『黒羊』　縦 25cm×横 10cm

“Bah, bah, a black Sheep,
Have you any Wool?
Yes merry have I,
Three Bags full,
One for my master,
One for my Dame,
One for the little Boy
That lives down the lane.”

書展は自由工作の発表会だと思ってます。羊ってカワイイですよね！

78
中谷百花　三回生
創作　行書　『我』　色紙



「我」
五年前のわたしと今のわたし

79
檜山葵　四回生
創作　行書　『凛』　色紙



「凛」
凛とした強さと優しさ。来年から社会人としてのスタートをきるうえで、その二つを兼ね備えた女性になりたいとの想いをこめて書きました。

80
藤井結稀　四回生
模刻　篆刻　『陽湖陶氏涉園所輯名人尺牘』　色紙



「陽湖陶氏涉園所輯名人尺牘」
線が歪んでしまったり、細くなりすぎたりよく見るとわりとしくじっていますがいい経験になりました。落款も含めご批評宜しくお願いします。

81
山口萌　修士一回生
創作　調和体　『刹那』　A3×2



「焼きついてよ　一瞬の光で　またとない命を　使い切っていくから…」
東京事変と椎名林檎は私の初心です。其の詩に触れたとき私は初めて、其の世界観を感じるだけではなく、自分で表現したいと思いました。初めて其の詩を表現してから三年。ある出来事から、私はより一層彼らの詩に魅了されるようになりました、其の詩にある無常観と葛藤、切り離せない執着に。発表できる場所がある幸せに浸りながら仕上げました。



82

小島健史・松澤祐実・稲葉由花利・中谷百花・家倉凌　三回生
合作　『明清扇五撰』　扇五面

明清時代の書家達による五種の扇を臨書しました。趣の違いを楽しんで頂ければ嬉しいです。
ちなみに五人中四人が農学部生なのは、すなわち農学部が暇だということの証明でしょうか。

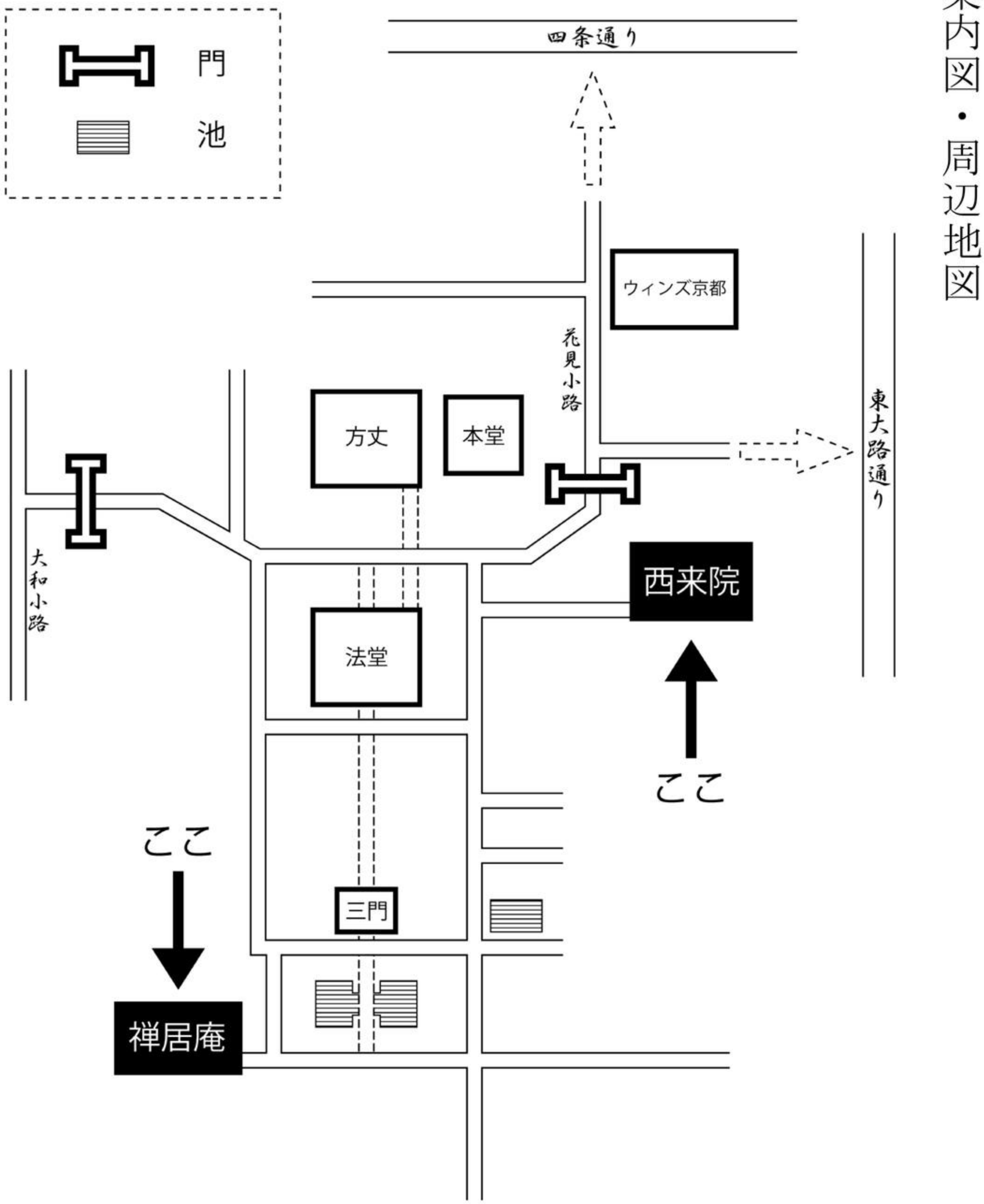
83

池田亜由美・尾崎由布子・中川和也・永溝聡士・米田直紀　修士二回生
合作　『とまどいながら・・・―祭（まつり）―』　四つ切り

「祭」

「抱一」という言葉がある。道をいだき守る。「一」は形からすれば「細く長い道」だが、数の上では「全ての始まり」でもあるから、「ここから始まる。」とも読めよう。今回、一本の筆を皆で一緒に握り「祭」と書いた。細くとも長く続くであろう僕たちの友情を思い、「抱一」ならぬ「握一」と洒落たのは僕独りだったろうか。

建仁寺案内図・周辺地図



掛軸 文房四宝 和紙の店 書楽

〒605-0012 京都市東山区東山三条東入南側
TEL.075-762-2330／FAX.075-751-6571
syoraku@aioros.ocn.ne.jp
〈日曜・祝日定休〉

Calligraphic Item Specialty Store 書遊 検索
複製用品・書道用品・額・軸装はお任せください。
書遊
http://www.syoyu-e.com/
AM.10:00－PM.6:00

奈良本店 駐車場完備
奈良市今辻子町37
TEL.0742-23-5547
FAX0742-20-2261

大阪店 駐車場あり
大阪市福島区福島
5-14-6クレセントビル2F
TEL.06-6458-8808
FAX06-6456-4077

京都店
京都市中京区高倉
通三条下る丸屋町
164
TEL075-251-7800
FAX075-251-7802

新潟営業所
TEL
025-374-5510
FAX
025-374-5511

札幌アメミヤ 新規店
札幌市中央区南一条西
2丁目5南一条ビル5F
TEL.011-398-9400
FAX011-398-9401

筆・墨・硯・書画用紙・色紙短冊・日本画用具
株式会社 松楳園
〒600-8075 京都市下京区柳馬場通仏光寺下ル
TEL（075）351－6380(代)
FAX（075）361－8006
http://www.shoubaien.co.jp.

香/筆/和風文具/香道具/茶道具
鳩居堂
〒604-8091 京都市中京区寺町姉小路
上ル下本能寺前町520
営業時間 10～18時 定休日(日曜日)
TEL. 075(231)0510 FAX. 075(221)5987
地下鉄東西線市役所前駅下車5番出口
http://www.kyukyodo.co.jp

充実した書道用品
りゅうしどう
龍技堂
京都 〒604-0916 京都市中京区寺町通二条上ル
TEL.075-252-4120 FAX.075-252-0006
東京 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋四丁目六の二
東洋美術印刷本社ビル一階
TEL.03-3239-0733 FAX.03-3239-0731

文具四寶（筆・墨・硯・紙）和紙工芸品 書画作品
書芸サロン 賛交
二条店 〒604-0931 京都市中京区二条通河原町西入北側
TEL・FAX：075-222-0390
E-mail：info@shoga-sankou.co.jp
株式会社 賛交社 本社 〒607-8216 京都市山科区勧修寺東出町27
TEL：075-572-8964／FAX：075-572-8905

かな料紙・京染和紙
加工紙・画仙紙・半紙他
書道用和紙の専門店
紙の津久間
京都市下京区新町通花屋町下ル
TEL (075) 371 - 8186 (代)
FAX (075) 371 - 8189

□部員紹介□

顧問 京都大学大学院 人間・環境学研究科 教授 阿辻哲次先生

技術顧問 日展会友・書道家 寺本蒼玄先生

一回生

経済 笠原知生
法 川根みゆき
農 木下有羽
法 清水麻友美
医 下坂桃代
理 田島正規
医 立田俊也
工 津金澤秀行
総人 深谷拓未
農 堀場菜摘
造形 眞嶋優一
法 三村祐貴子
工 宮部大志
工 矢野凱己
工 山口和樹
農 山崎夏野
工 山科直也
工 渡辺顕

二回生

農 新井一矢
薬 荒巻拓哉
工 石川敬一
理 上西隆太
工 牛山泰喜
工 上井晴仁
工 閻姝恒
工 角谷遊野
総人 加藤大智
農 釜阪紘平
工 藏岡凌平
文 篠原理那
光華 島津七明
工 白谷暢浩

教育 神保里帆
工 宗哲仁
工 惣塚勝也
理 武田桃子
法 徳川鈴奈
理 疋田研一郎
農 古川智大
法 寶官紗紀
農 松下有菜
法 山﨑絢香
医 山下燎亮
総人 山脇謙
文 吉村友希

三回生

工 飯岡達也
農 稲葉由花利
理 上村耕平
工 王隽齐
法 大石龍太
工 岡本悠
農 片野裕太
工 河合翼
法 北堀雄大
法 小島健史
工 柴田尚紀
工 石博昭
法 高橋侑生
工 チャンドゥク・クァン
法 戸高郁穂
農 中谷百花
法 中野綾香
理 東村智佳
工 藤田雄也

農 松澤祐実
文 宮下拓也
農 家倉凌
経済 山野敬子

四回生

法 浅野彰浩
工 天艸開
理 伊東優治
医 上田美幸
法 大泉陽輔
医 川上澄香
農 菊池悠里
工 小松聡子
工 柴田翔
工 鈴木貴也
法 多門千早
法 寺田実穂子
農 寺西幸
法 中田真規
文 橋詰奈央
法 檜山葵
総人 平野泰隆
工 藤井結稀
文 康村博宣
工 山本大翔
農 吉田梨沙
薬 渡辺健介

五回生

理 植島寛之
経済 太田悠子

修士一回生

工 大庭諒介
工 奥山優
工 小野愛美
農 鈴木新人
工 時藤大典
情報 アルセーニ, トルマチョブ
農 前渋奈央子
医 山口萌

修士二回生

工 池田亜由美
農 尾崎由布子
文 中川和也
工 永溝聡士
工 米田直樹

留学生

郭旻錫
ルムリン, ガービー

研究員

園田真也



This book was
made by the LeME